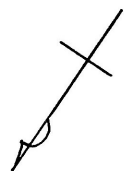
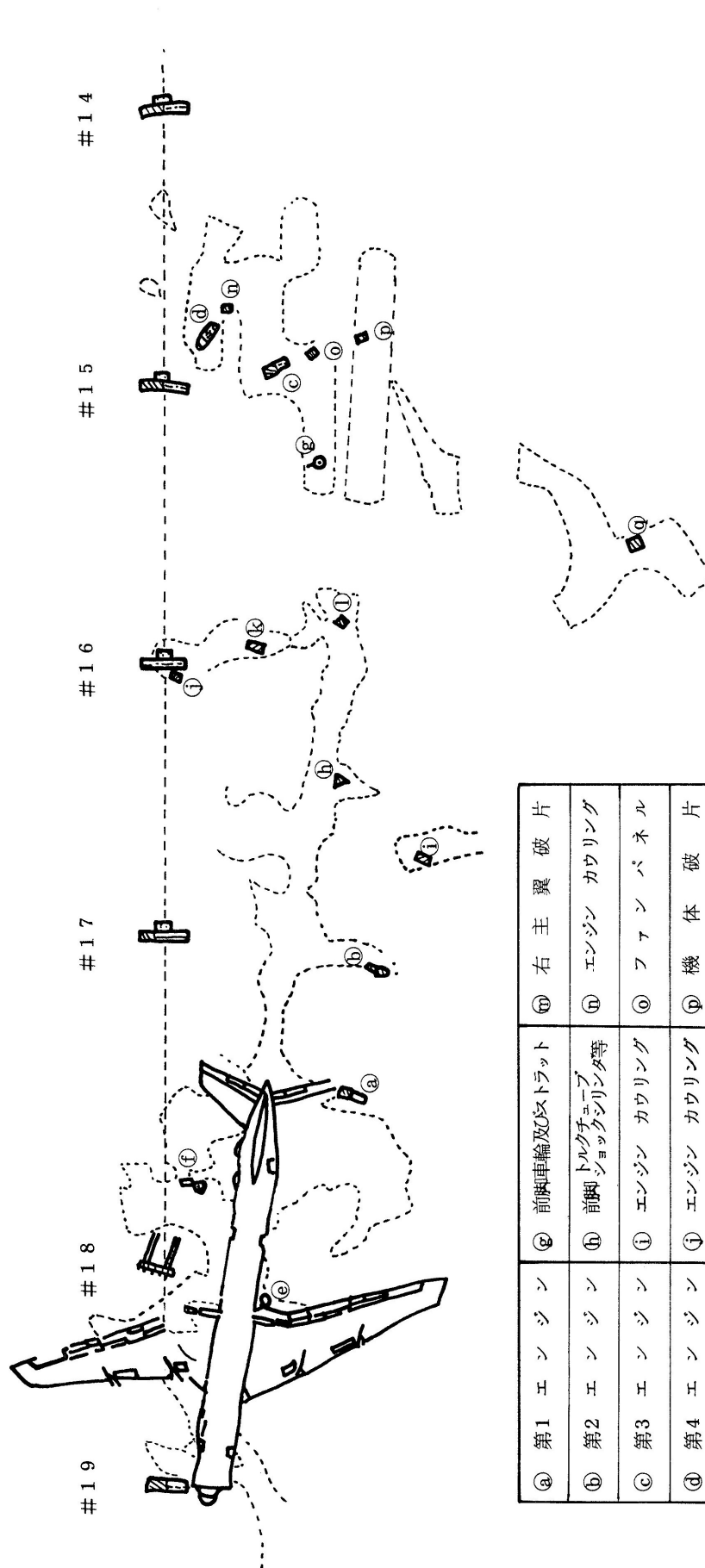


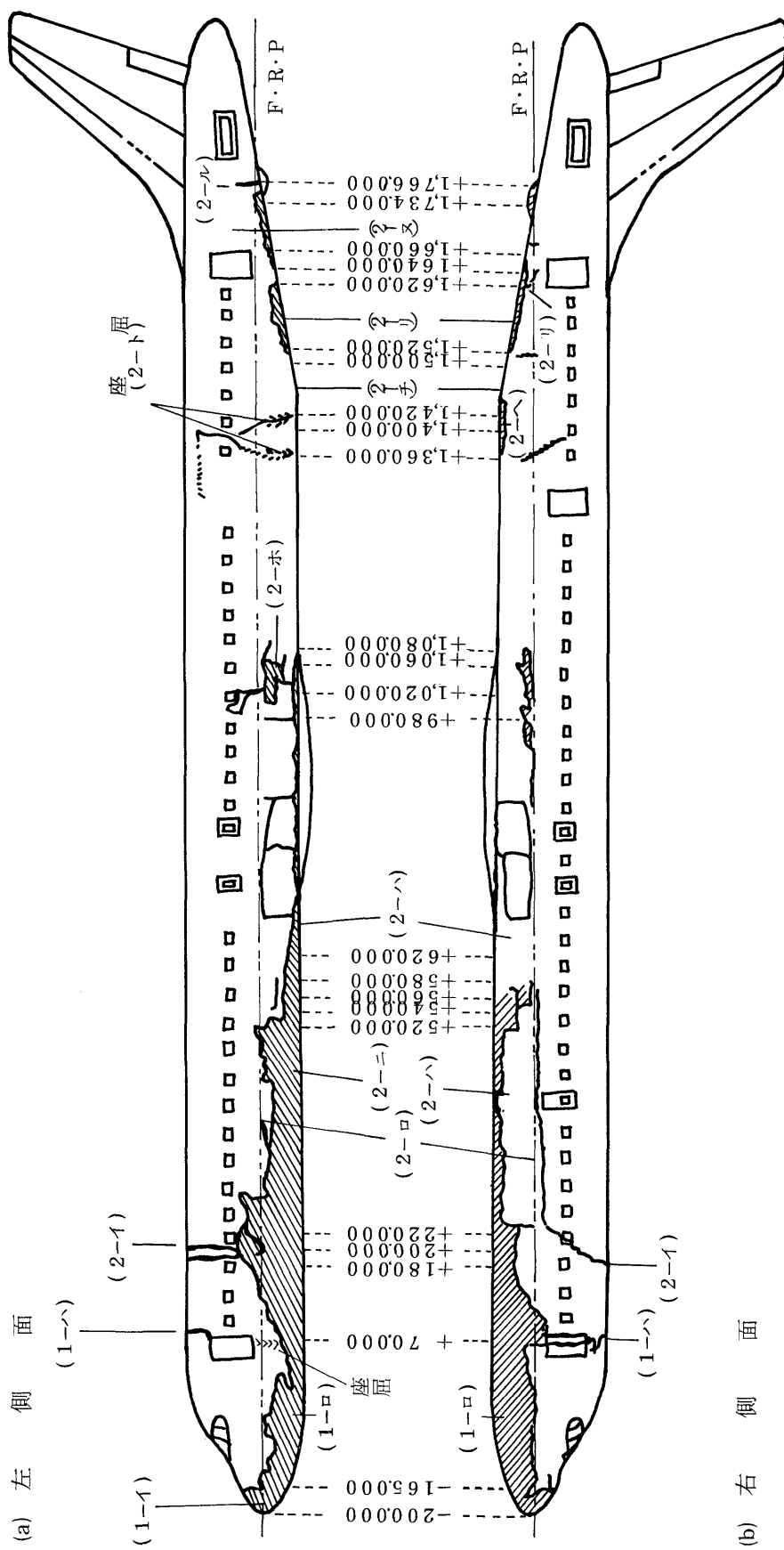
第6図 主要残骸散乱状況図



1
5 0 0 0 ㉞

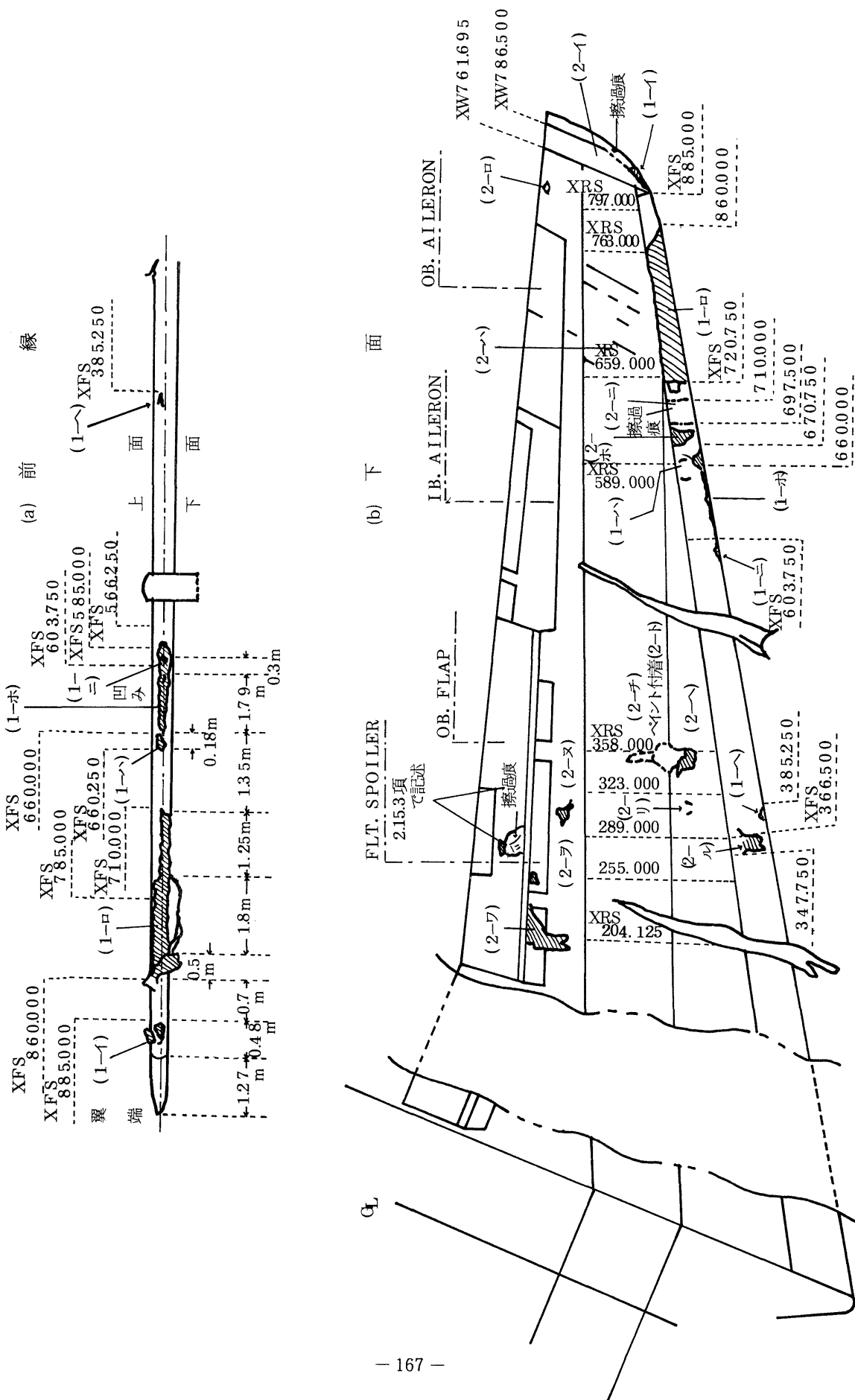


㉞	第1エンジン	㉞	前脚車輪及ストラット	㉞	右主翼破片
㉞	第2エンジン	㉞	トルクチューブ 前脚ショックシリンダ等	㉞	エンジンカウリング
㉞	第3エンジン	㉞	エンジンカウリング	㉞	ファンパネル
㉞	第4エンジン	㉞	エンジンカウリング	㉞	機体破片
㉞	左主脚	㉞	フラップ片	㉞	主翼破片
㉞	右主脚	㉞	主翼破片		

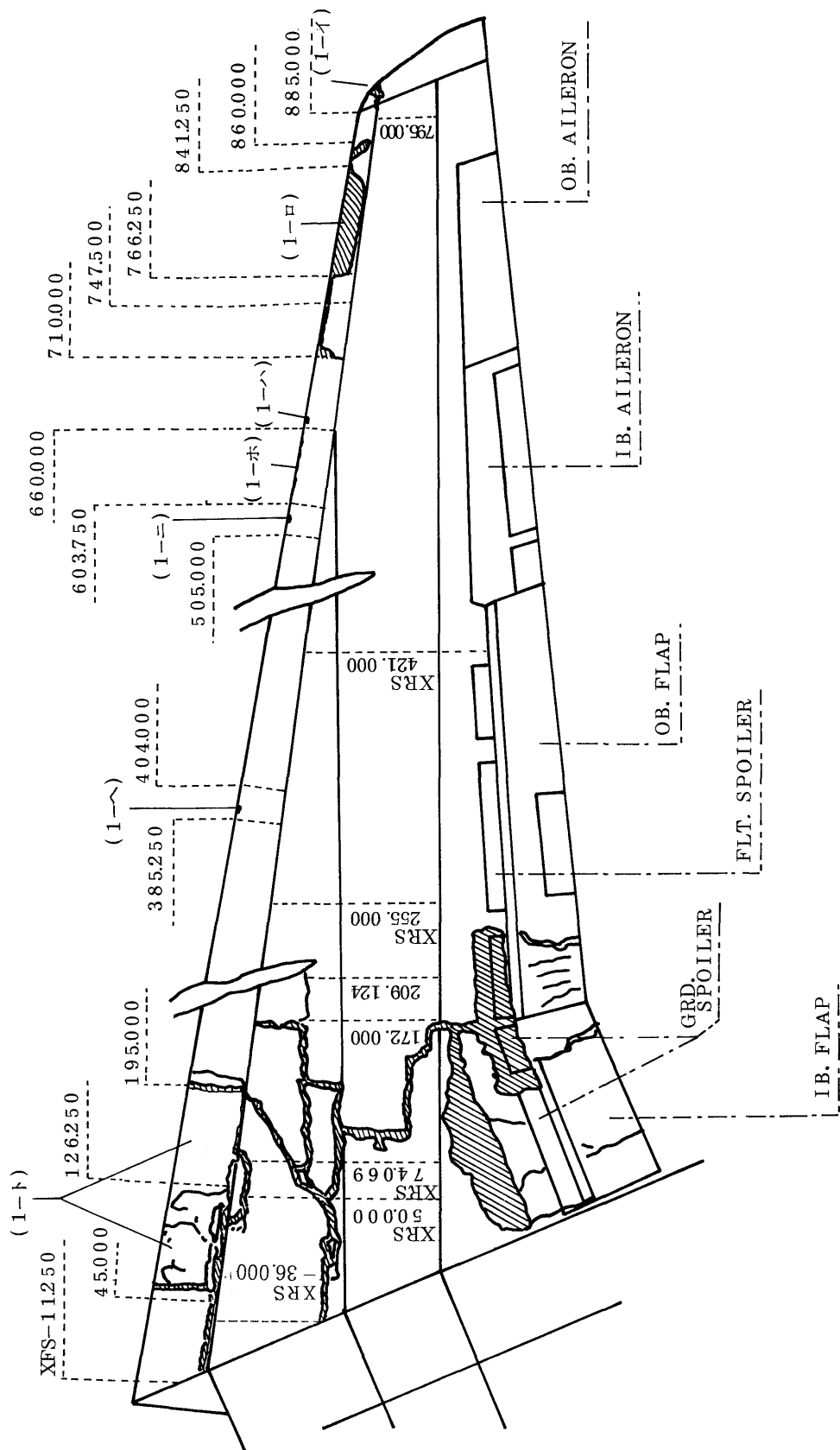


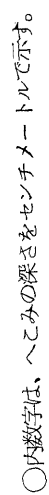
()は、本文中の対応条項を示す。

第 8 図 右 主 翼 損 壊 図 () 内は、本文中の対応条項を示す。

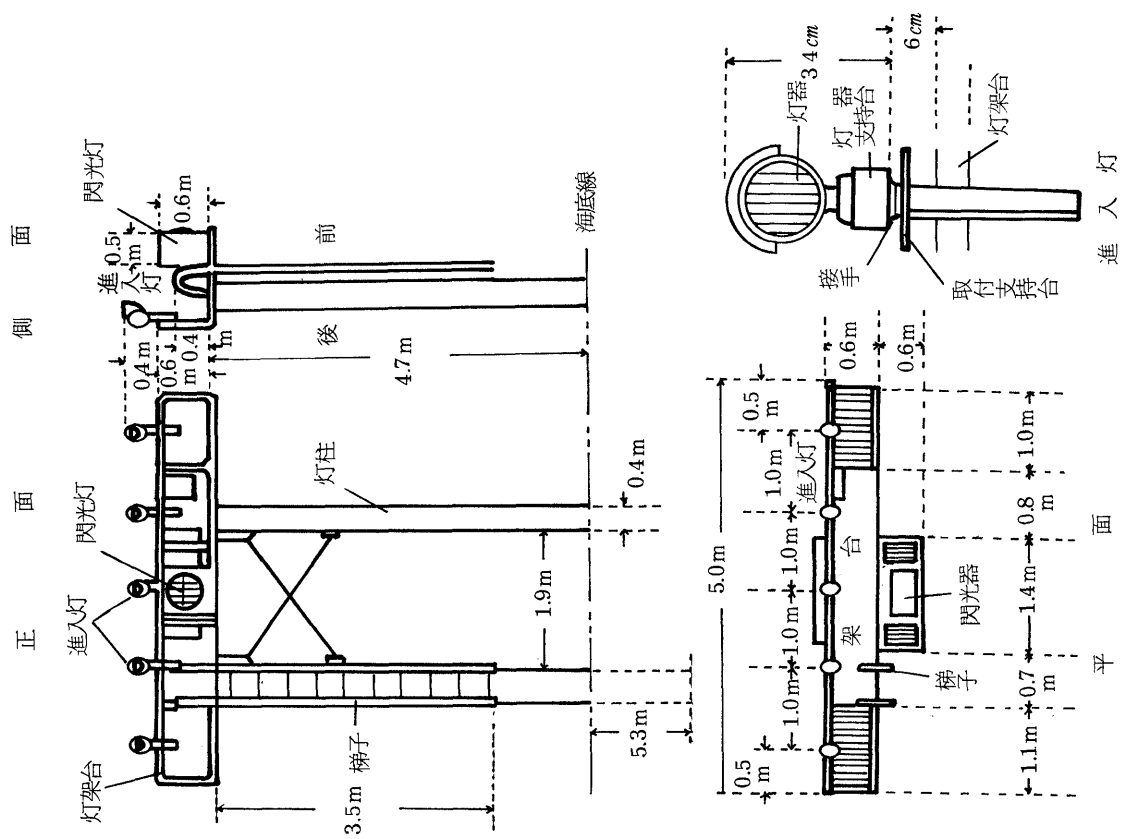


(c) 上 面

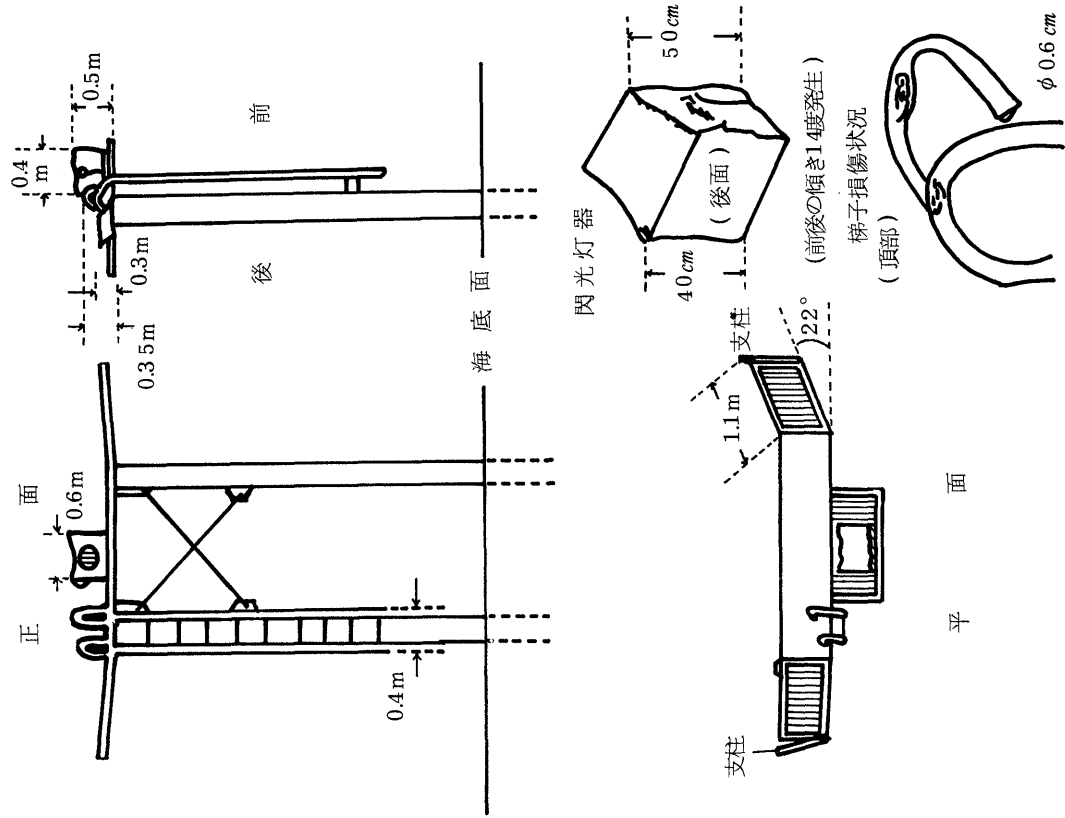


$$\frac{1}{500}$$


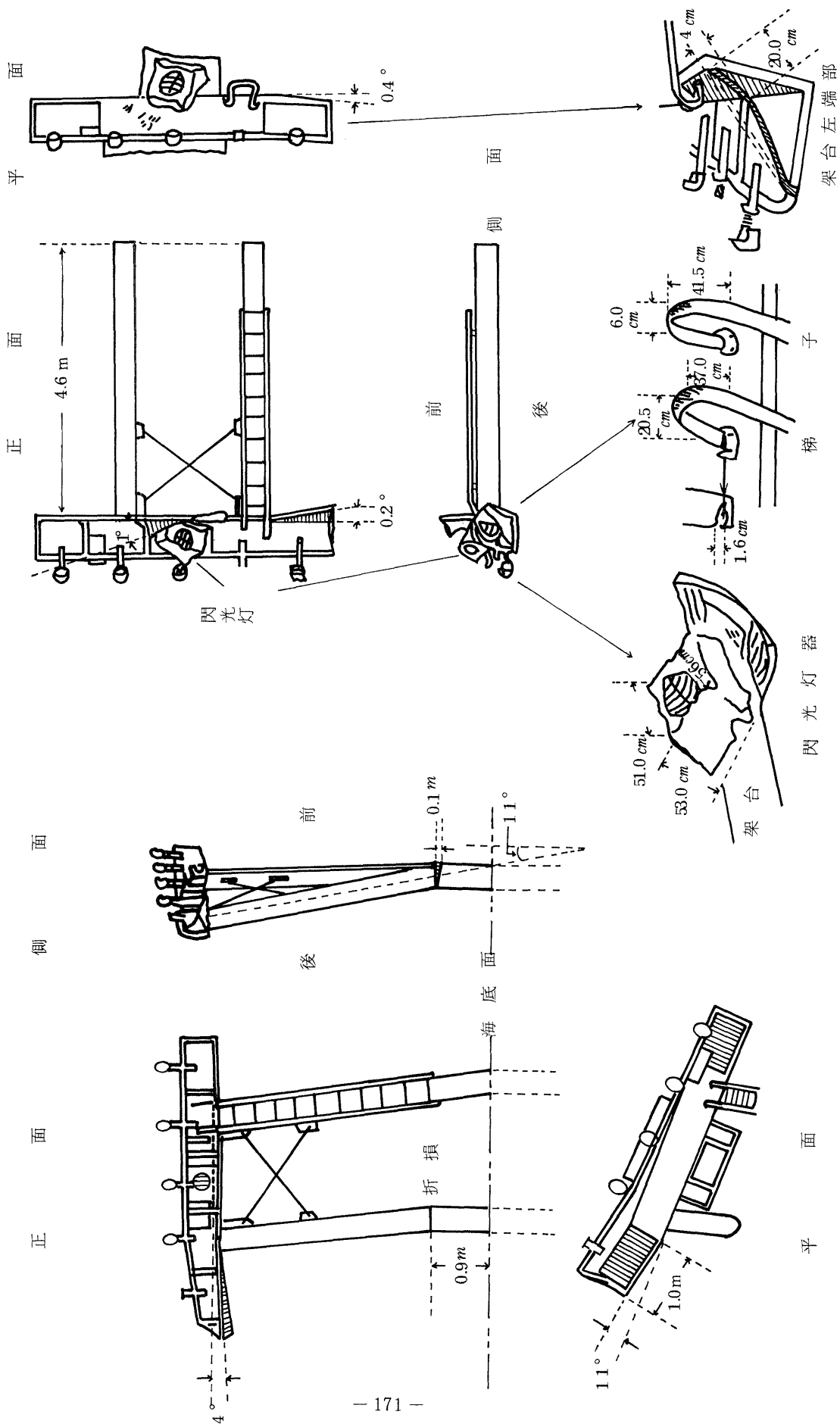
第10図 進入灯構造図



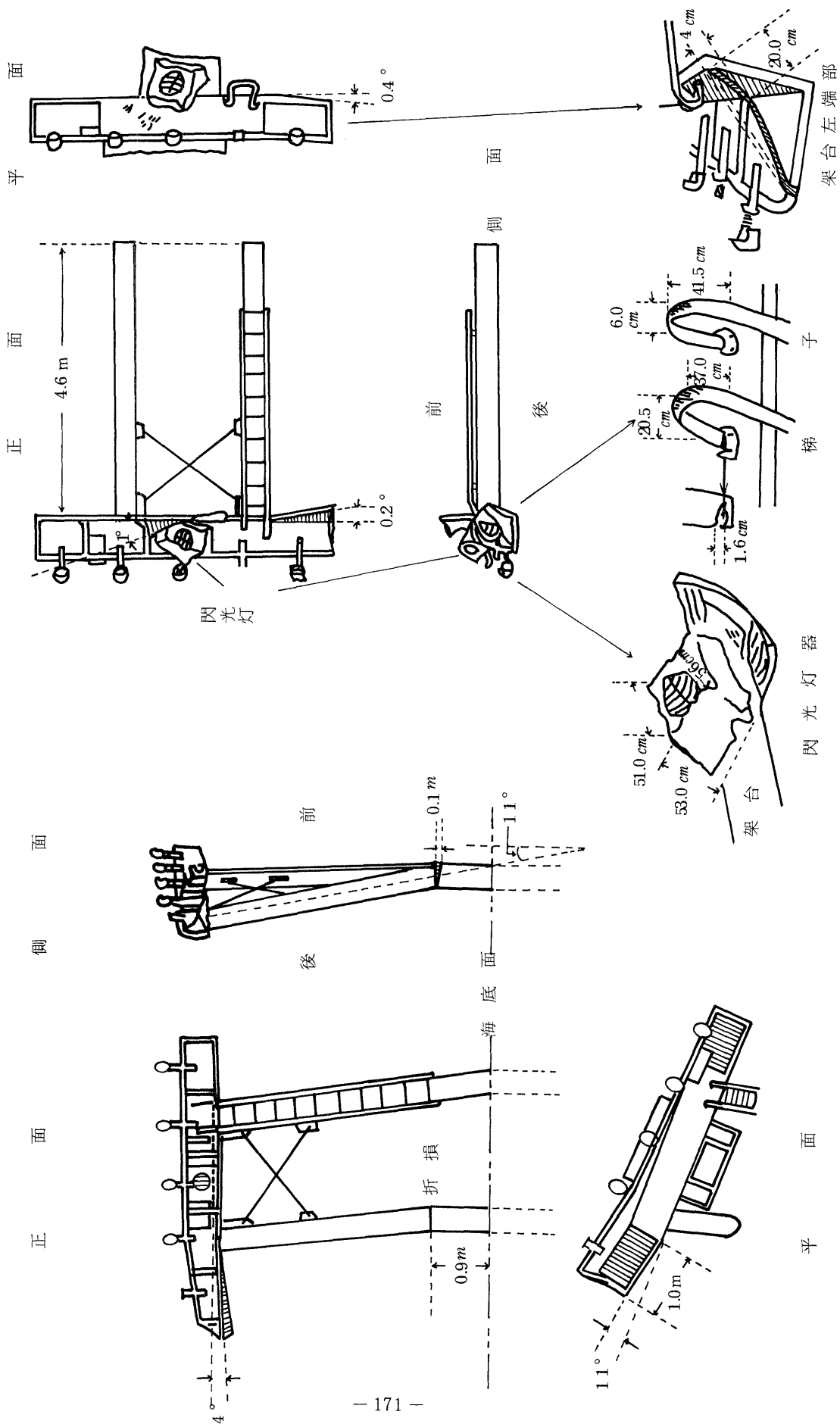
第11図 進入灯損壊状況
(a) 第14番進入灯

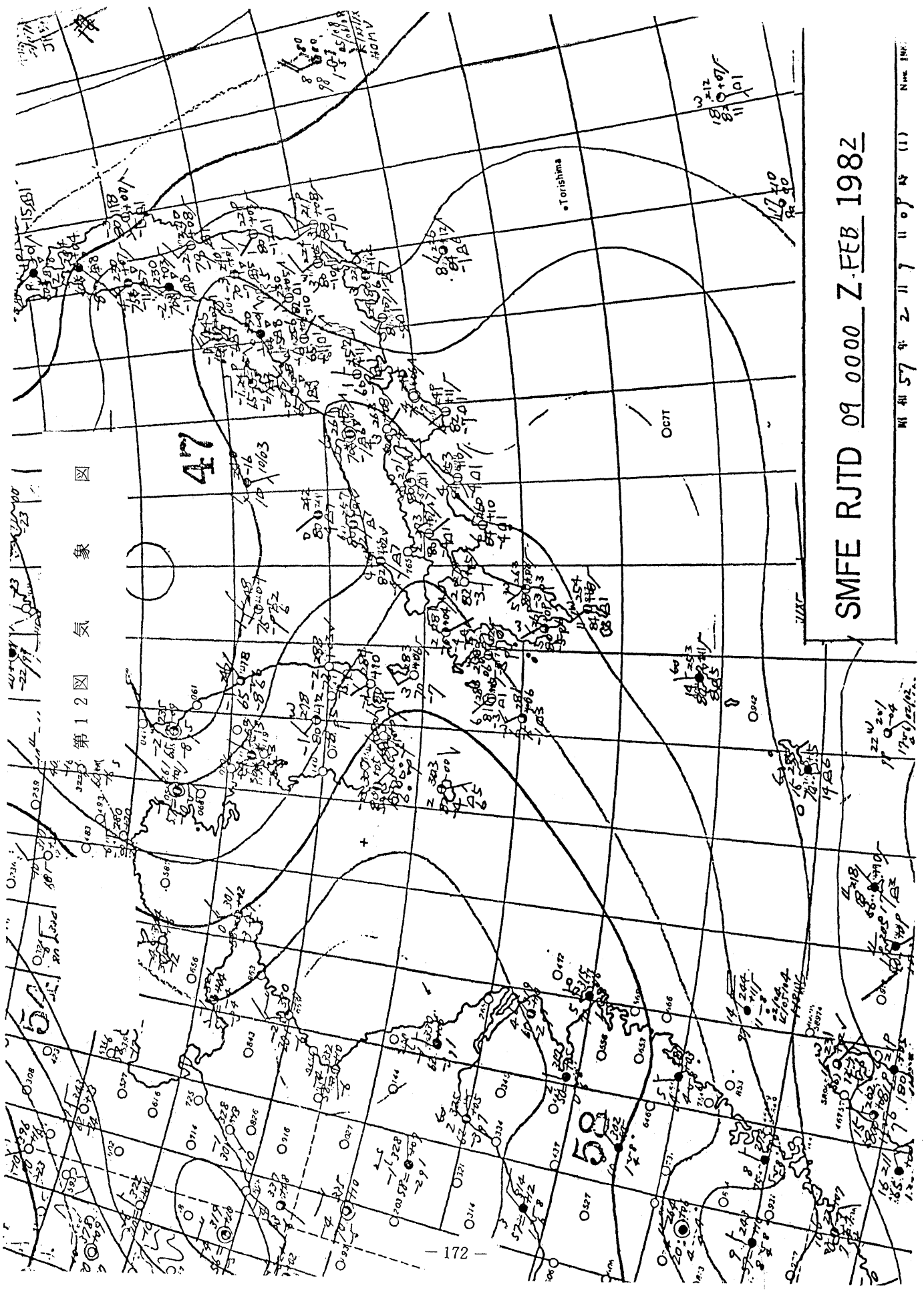


(b) 第15番進入灯



(c) 第18番進入灯 (海底に倒れていた)

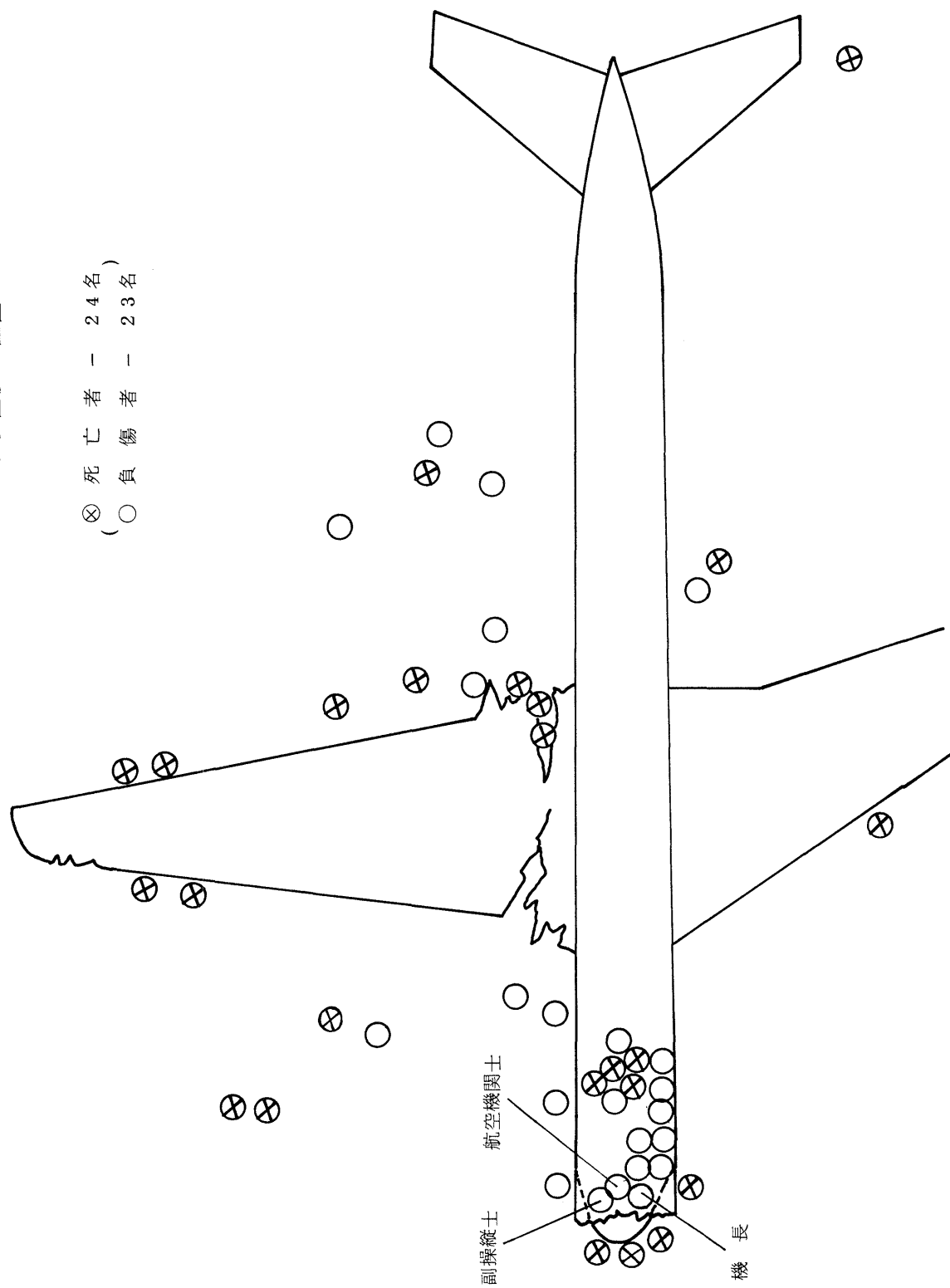


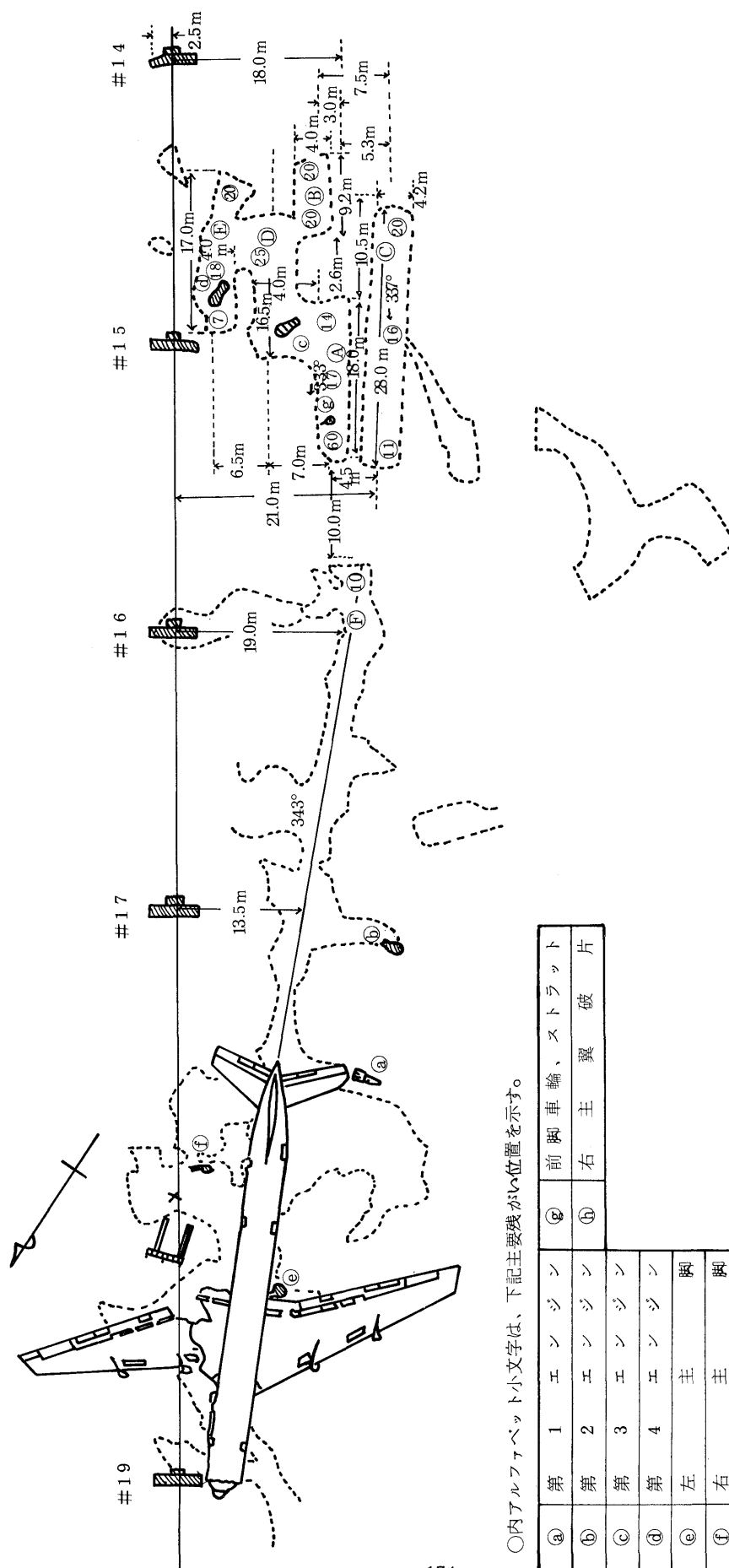


第12図 気象図

SMFE RJTD 09 0000 Z-FEB 1982

第 1 3 図 座席列 1 1 からの座席に座っていた者の事故直後の位置





○内アルファベット小文字は、下記主要残がい位置を示す。

①	第 1	エ	ン	ジ	ン	⑧	前脚車輪、ストラット
②	第 2	エ	ン	ジ	ン	⑨	右主翼破片
③	第 3	エ	ン	ジ	ン		
④	第 4	エ	ン	ジ	ン		
⑤	左	主	脚				
⑥	右	主	脚				

○内数字は、へこみの深さをセンチメートルで示す。

○内アルファベット大文字は、各痕跡別を示す。

SECTIONAL VIEW OF J40 ENGINE

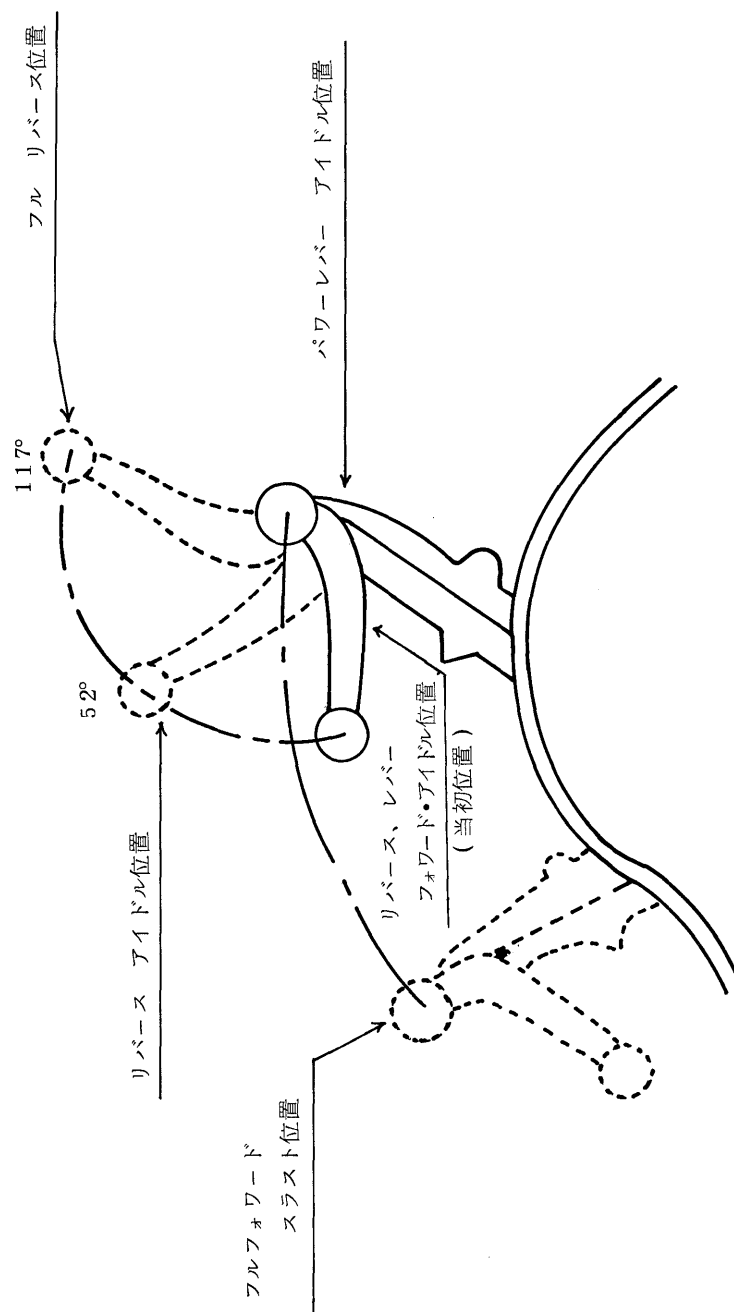
Labels and components visible in the diagram include:

- COMPRESSOR INLET CASE
- COMPRESSOR FRONT CASE
- COMPRESSOR REAR CASE
- COMPRESSOR 9TH STAGE
- COMPRESSOR 8TH STAGE
- COMPRESSOR 7TH STAGE
- TURBINE INLET CASE
- TURBINE FRONT CASE
- TURBINE REAR CASE
- TURBINE 1ST STAGE
- TURBINE 2ND STAGE
- FUEL SYSTEM
- OIL PRESS
- EXHAUST NOZZLE
- EXHAUST CASE

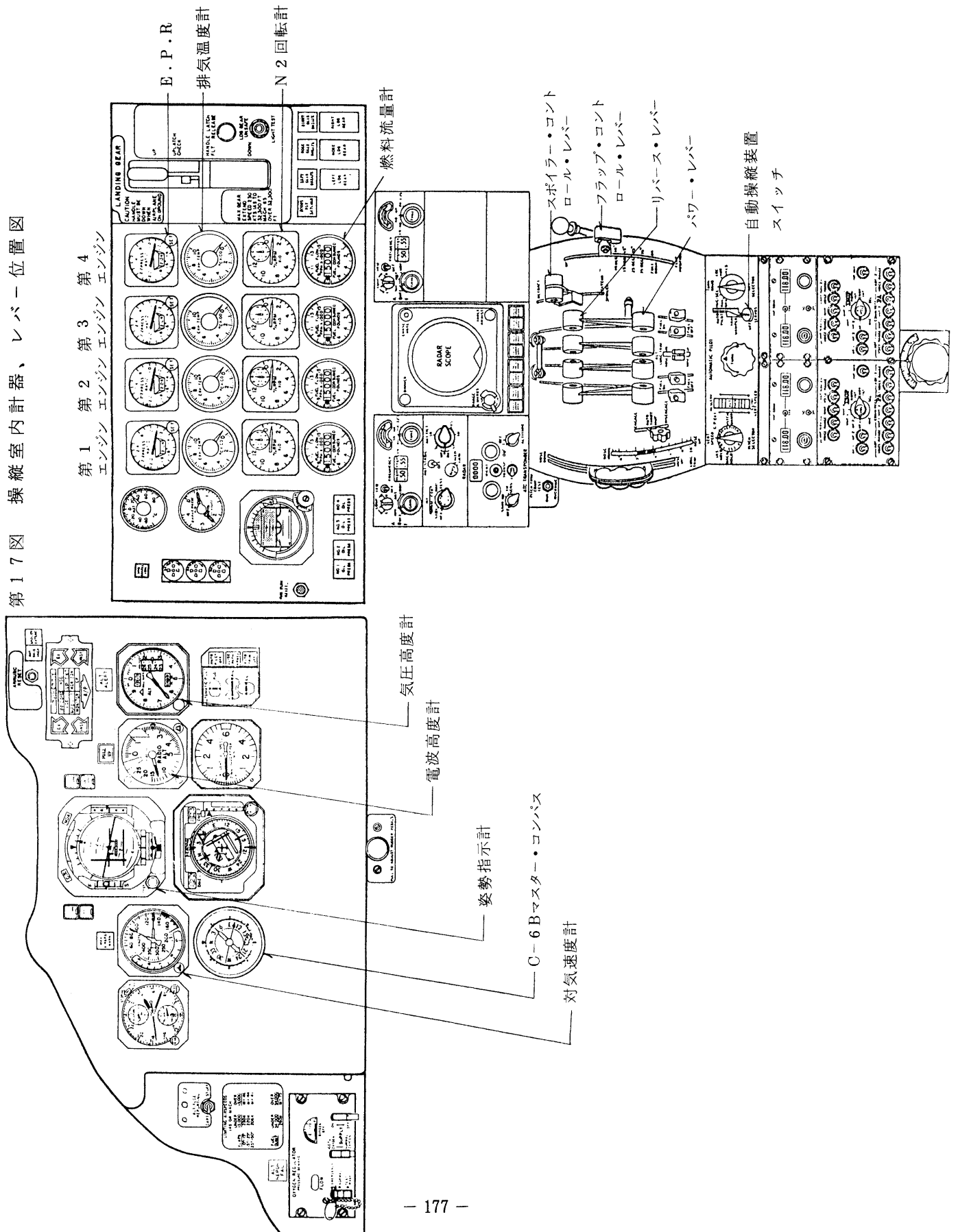
Numbers 1 through 100 are used to identify specific parts throughout the engine assembly.

MIT DESSEN

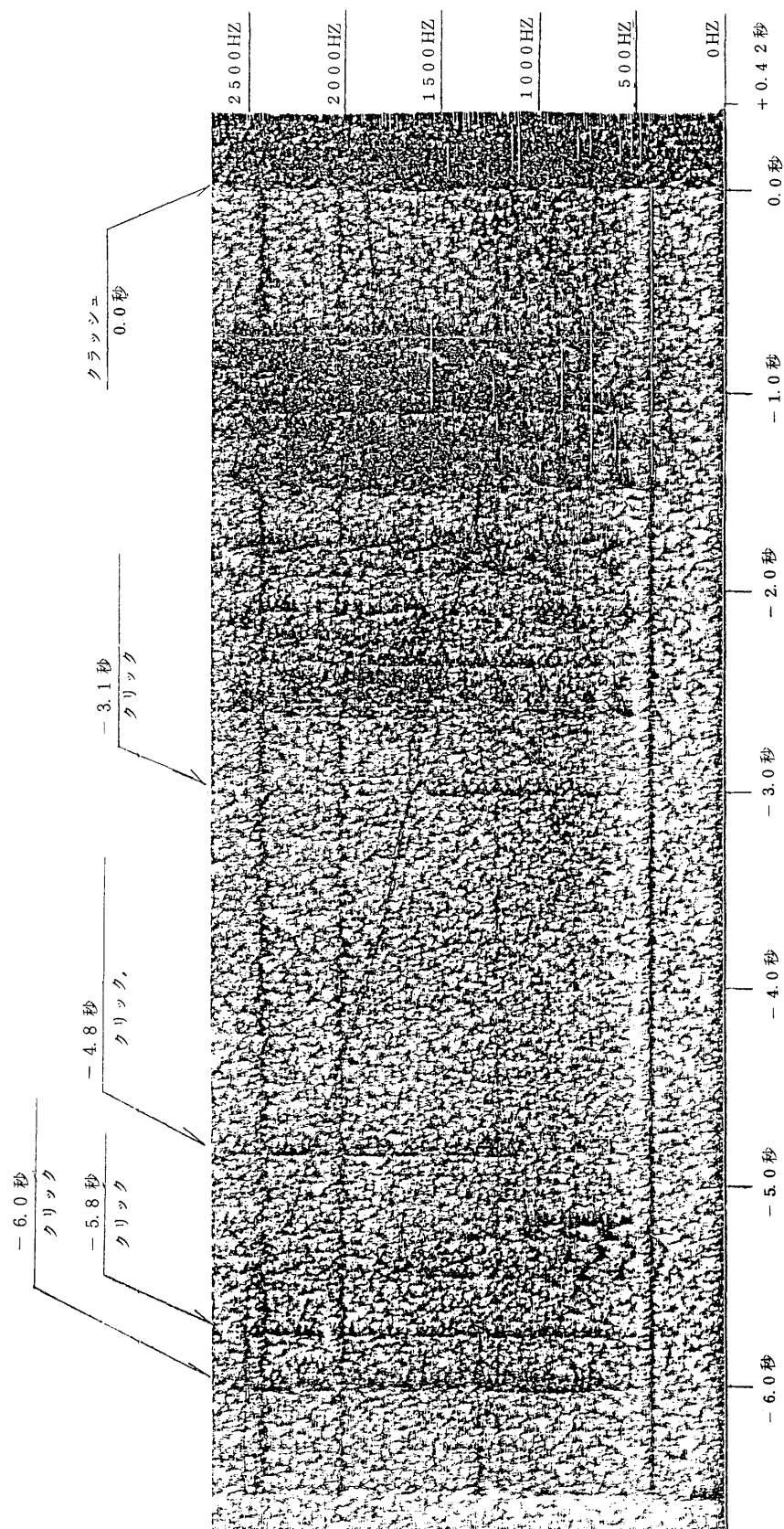
第 1 6 図 パワーレバー、リバース・レバー作動図



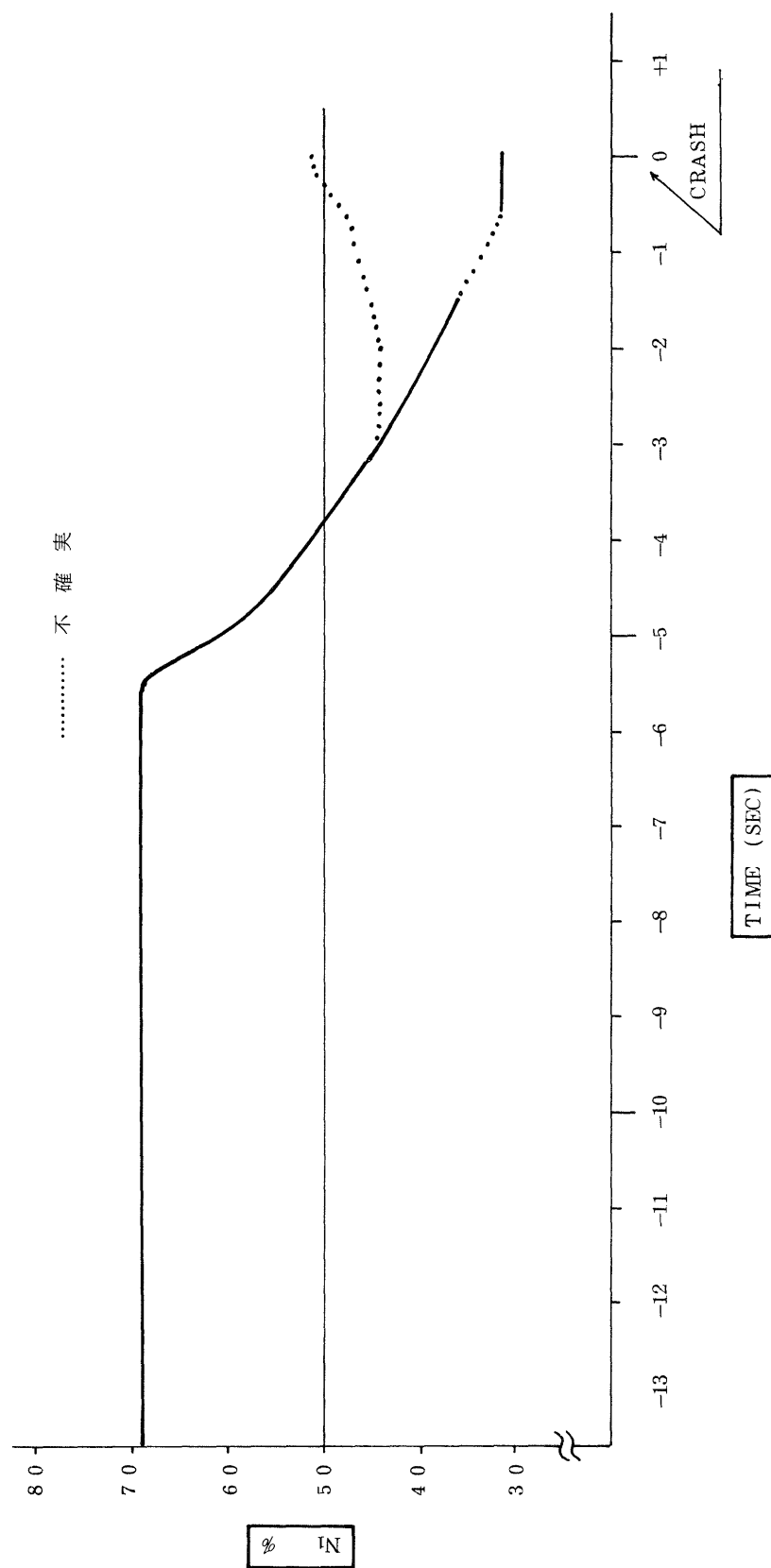
第 17 図 操縦室内計器、レバー位置図



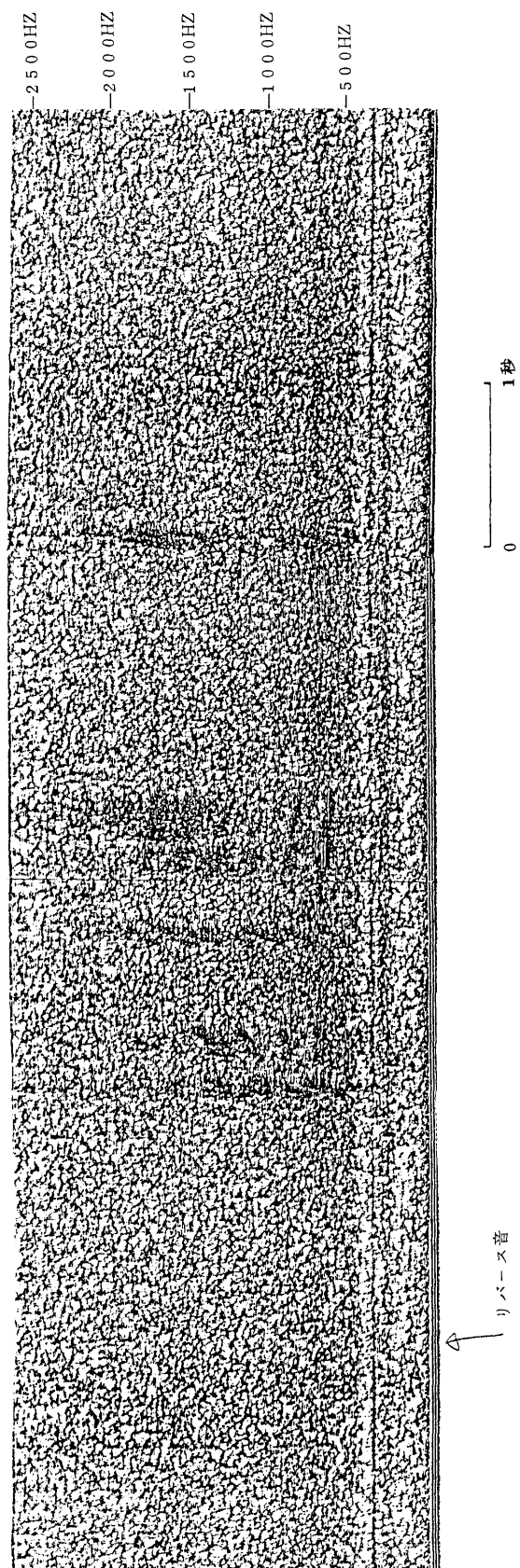
第 18 図 C V R の最終部分の記録の音響スペクトル・パターン



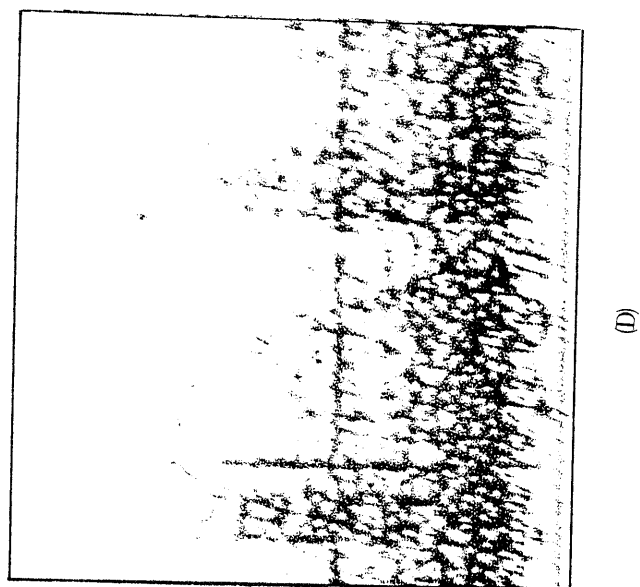
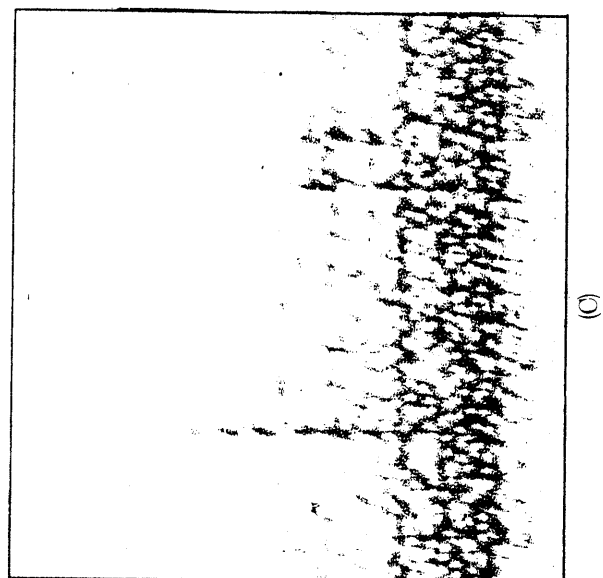
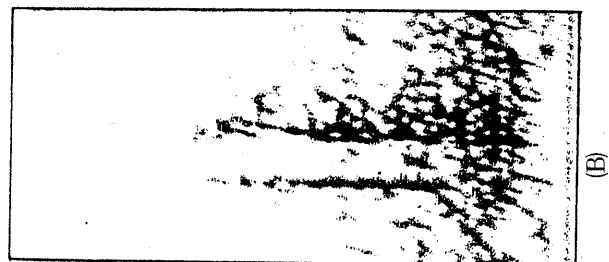
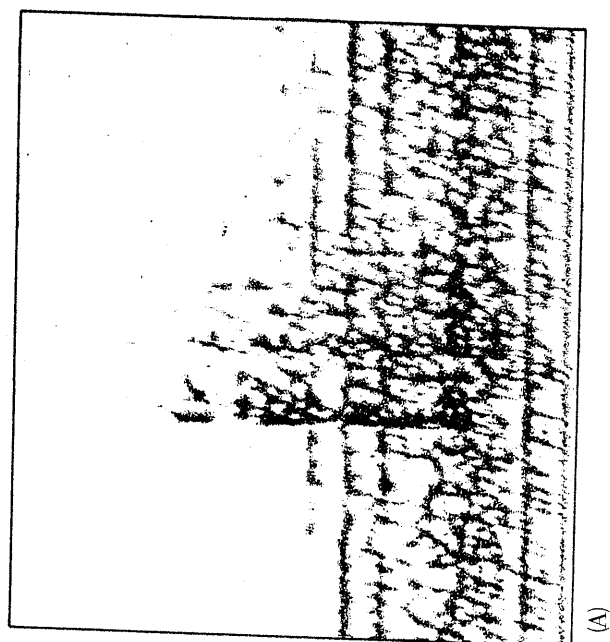
第19図 C V Rの最終部分の記録の音響スペクトル・パターンから
推定される低圧コンプレッサの回転速度



第20図 同型式機のリバース音の音響スペクトルパターン

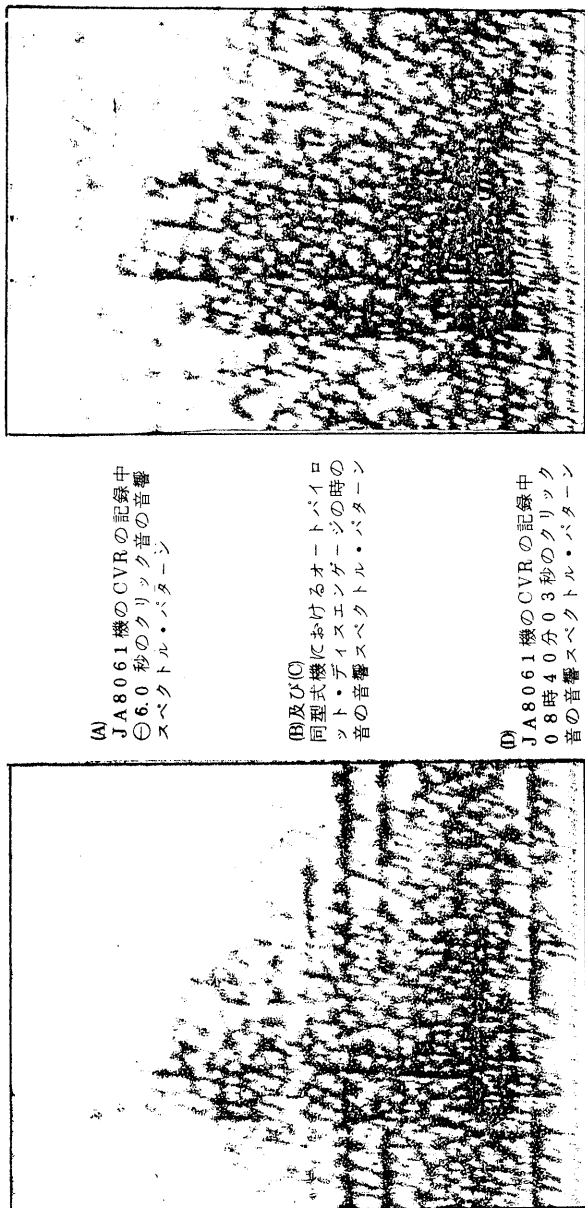


第 2 1 図 リバース・レバーの操作音の音響スペクトル・パターン



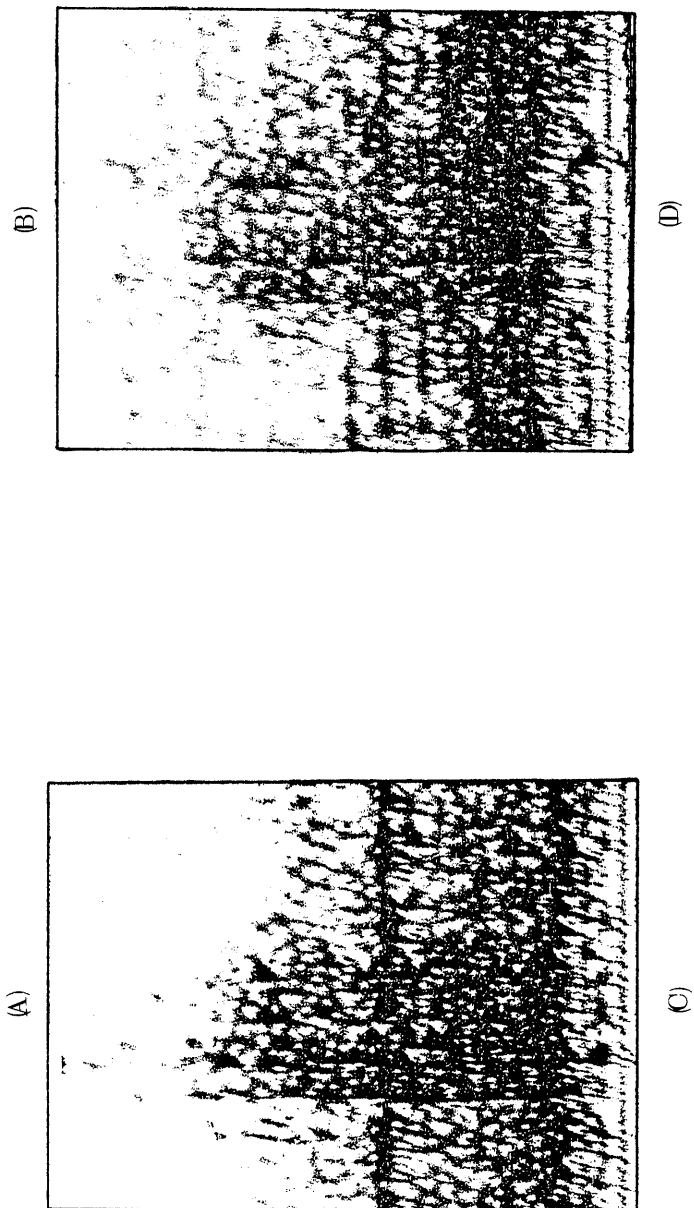
- (A) JA8061機のCVRの記録中④4.8秒のクリック音の音響スペクトル・パターン
(B) (C)及び(D) 同型式機におけるリバース・レバーの操作音の音響スペクトル・パターン

第 2 2 図 オート・パイロット・デイスエンゲージ時の音の音響スペクトル・パターン



(B)及び(C)
同型式機におけるオートパイロ
ット・デイスエンゲージ時の
音の音響スペクトル・パターン

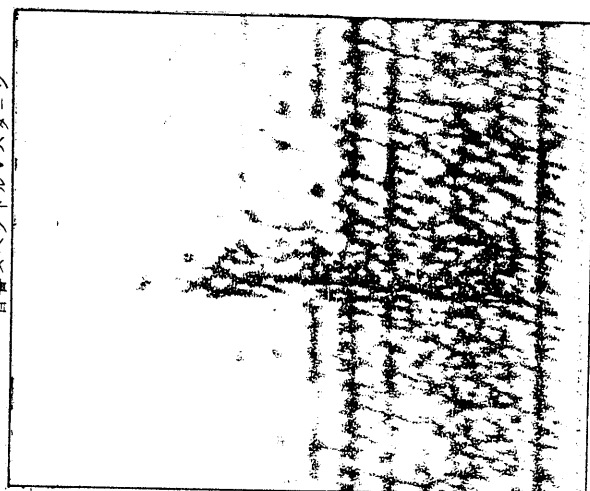
(D) JA8061機のCVRの記録中
08時40分03秒のクリック
音の音響スペクトル・パターン



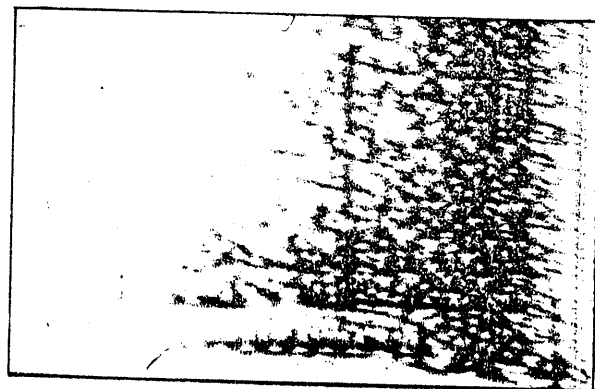
第23図 パワー・レバーをフォワード・アイドル位置まで戻した時の音の音響スペクトル・パターン

(A) JA8061機のCVRの記録中⑤5.8秒のクリック音の音響スペクトル・パターン
(B)及び(C) 同型機におけるパワー・レバーをフォワード・アイドル位置まで戻した時の音の

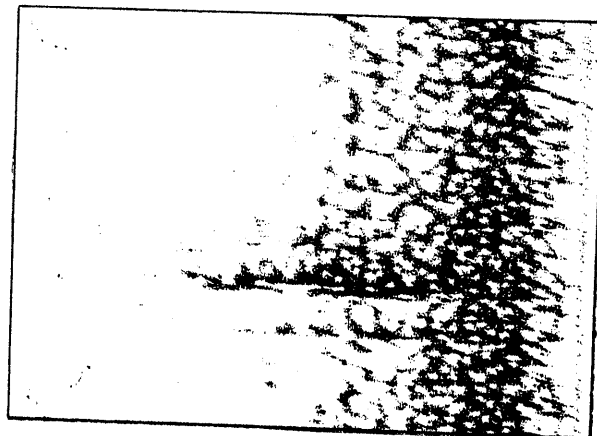
音響スペクトル・パターン



(A)

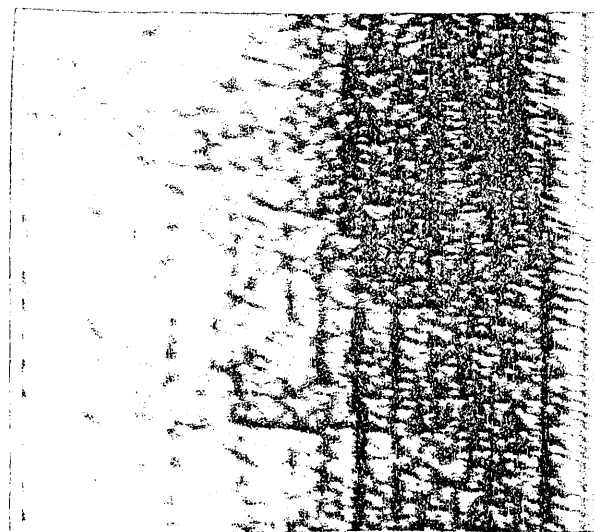


(B)



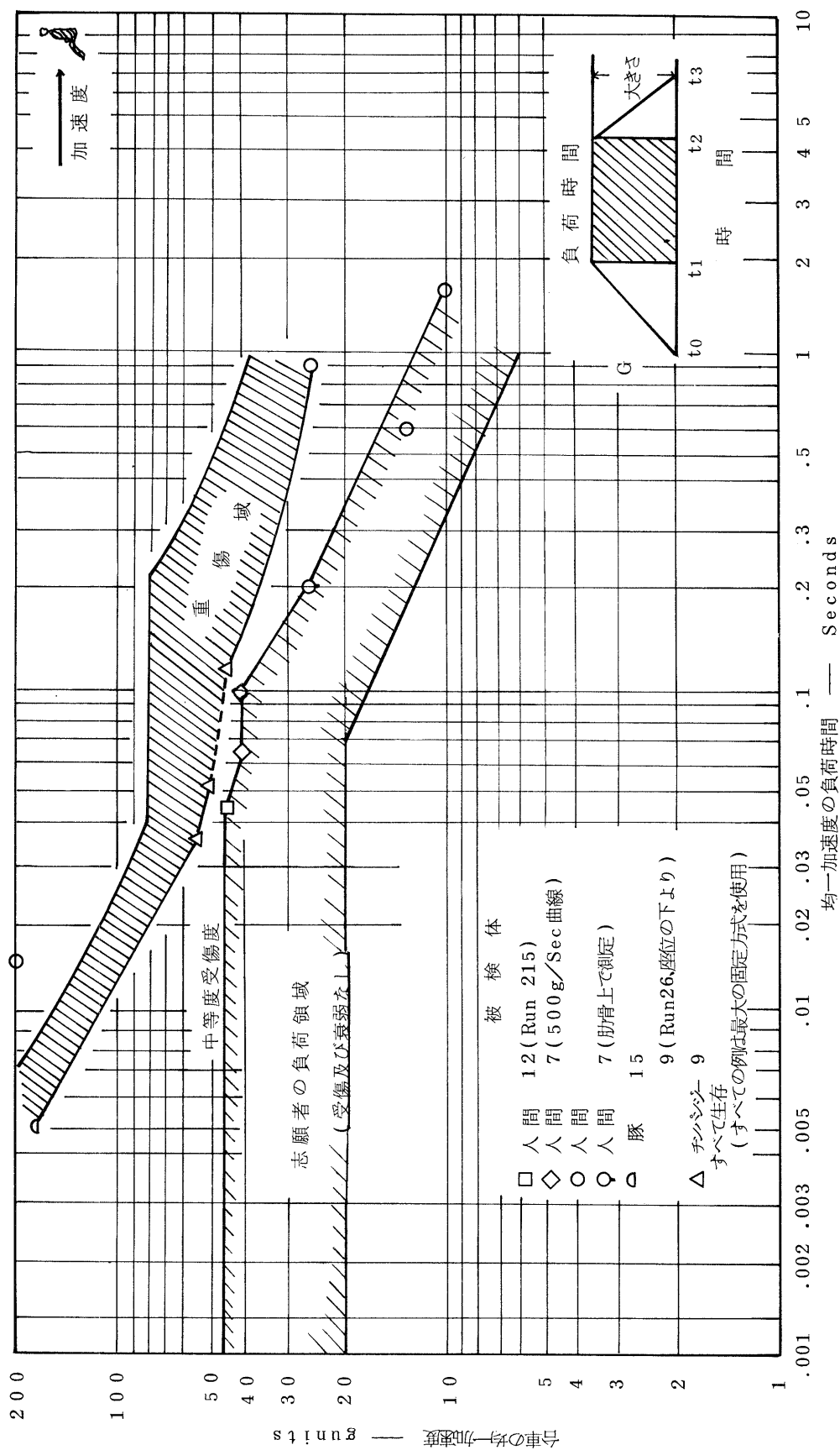
(C)

第24図 ー 3.1秒のクリック音の音響スペクトル・パターン

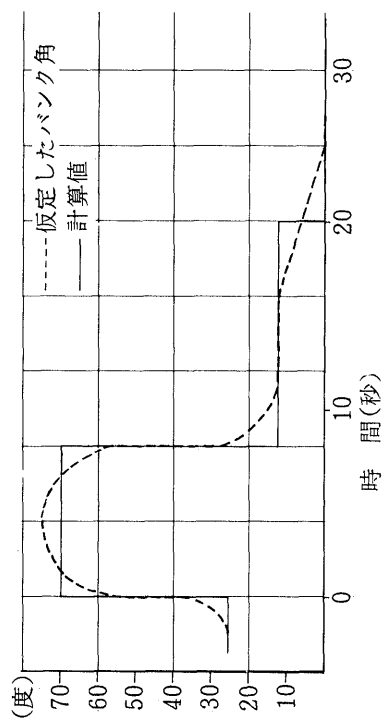


第 2 5 図 人体に及ぼす水平方向前方への G の影響

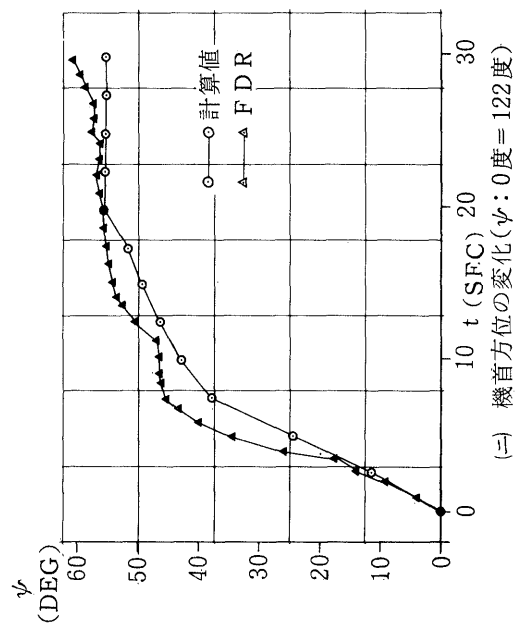
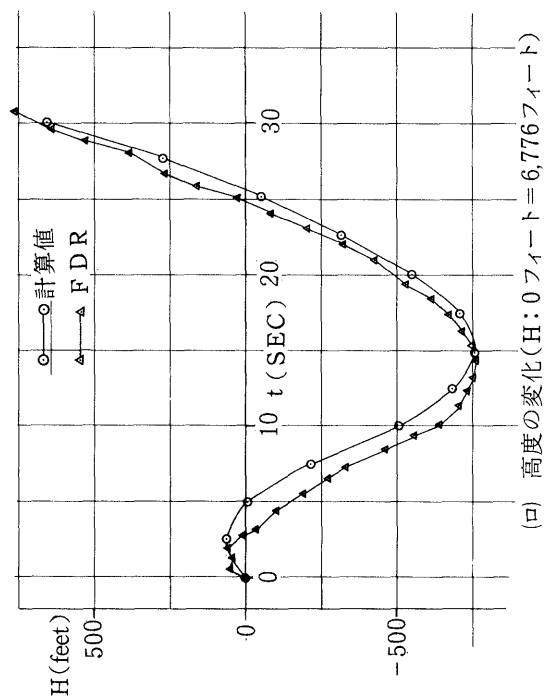
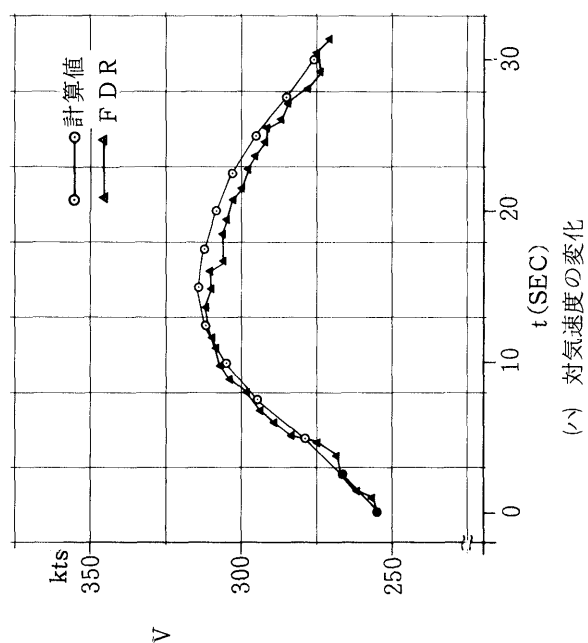
(ウェットプ氏の資料)



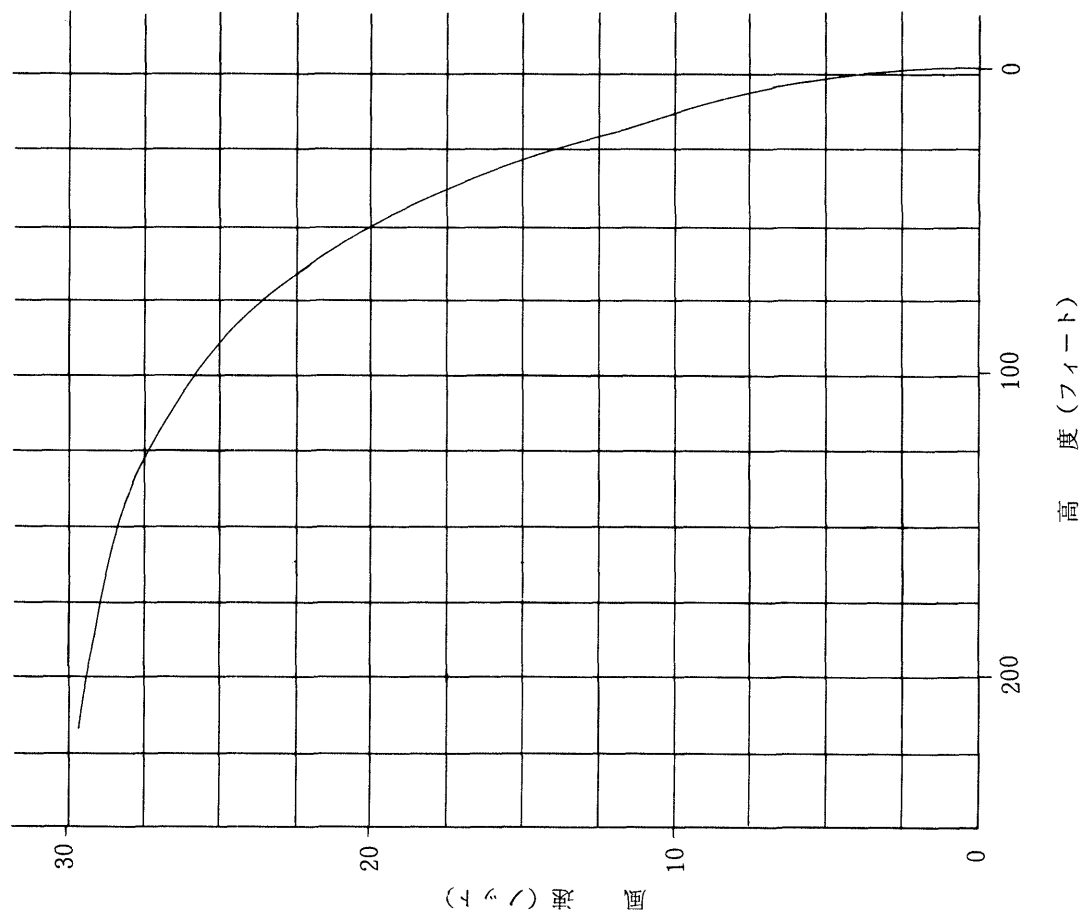
第 26 図 J L 377 便の異常旋回のシミュレーション計算の結果

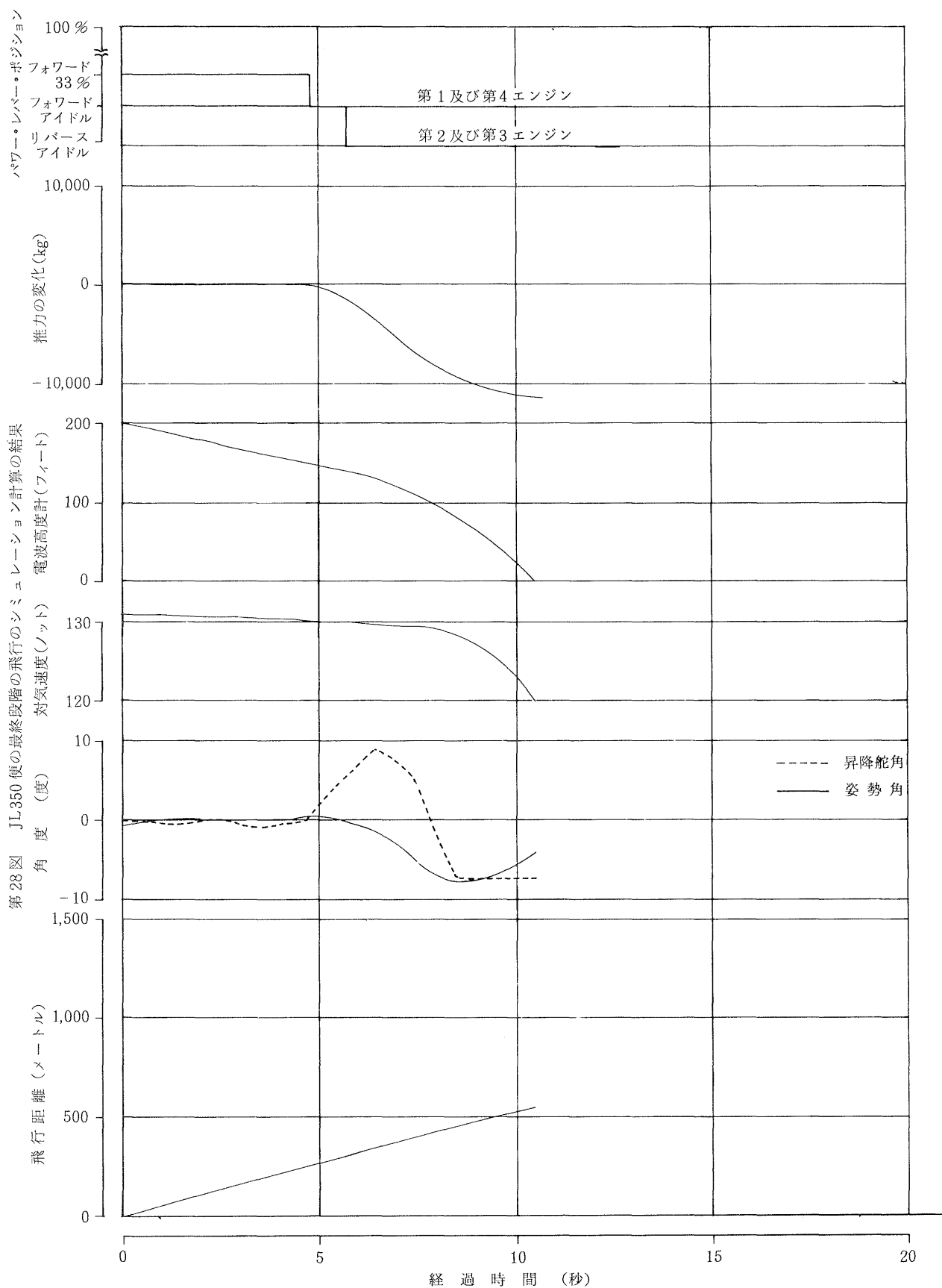


(イ) バンク角の時間的变化

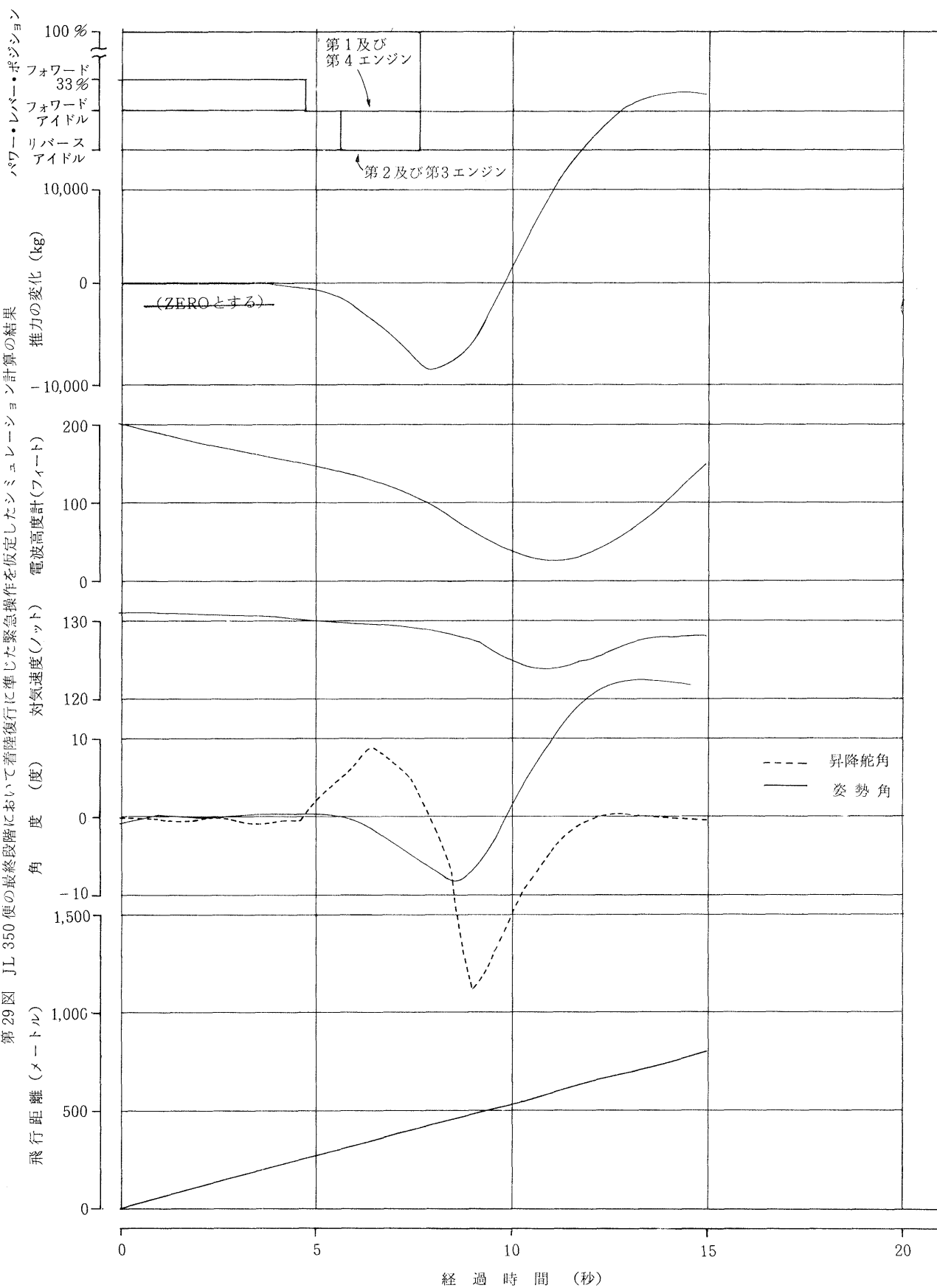


第27図 JL350便の最終段階における飛行時の向かい風の成分





第29図 JL 350 便の最終段階において着陸復行に準じた緊急操作を仮定したシミュレーション計算の結果

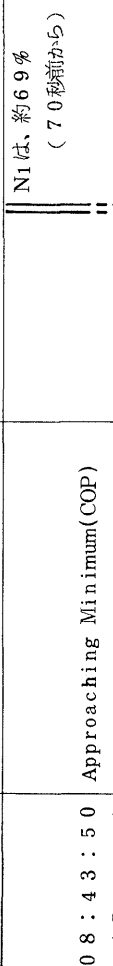


第 1 表 ダグラス式 DC-8-61 型機の主要性能諸元 (日本航空機全集による。)

寸 法	全 幅	43.4メートル
	全 長	57.1メートル
	全 高	12.9メートル
重 量	最大離陸重量	325,000ポンド(147,420キログラム)
	最大着陸重量	240,000ポンド(108,864キログラム)
性 能	最大速度 (TAS)	505ノット(935キロメートル) Vmo 23,000フィート以下
	経済巡航速度 (TAS)	461ノット(854キロメートル)
	失速速度 (フラップ上げ、IAS)	167ノット(309キロメートル)
	(フラップ下げ、IAS)	111ノット(206キロメートル)
	上 昇 率	2,500フィート/分(762メートル/分) 重量300,000ポンド、海面上、IAS300ノット
	実用上昇限度	42,000フィート(12,802メートル)
エンジン	航続距離 (燃料最大)	約5,390海里(9,955キロメートル)
	離陸滑走路長	10,000フィート(3,048メートル)
	着陸滑走路長	6,150フィート(1,875メートル)
推 力 (4基)	離陸最大推力、排気ガス温度	555度C、海面上、5
	分間	

第2表 JL350便の最終段階の飛行経過に関するCVR及びFDRの記録並びに口述記録の対比

時間は、日本標準時及び()内は、墜落時を0.0秒として、その前を⊖、その後を⊕で表示した。

時 間	C V R			F D R	口 述 そ の 他
	会 話 及 び 操 作 音	エ	ン ジ		
08:43:50 (⊖17.45)	Approaching Minimum(COP)		 N1は、約69% (70秒前から)	132kt:300ft:335°	○OM通過後のEPR、第1&4は1.1強、第2&3は1.04~1.05(F/E)
08:43:50 (⊖17.00)	Check(CAP)				
08:43:50 (⊖16.98)	MM信号音(作動開始)			08:43:52 335°から左へ	○MM通過するころ、ひどい恐怖心(CAP)
08:43:56 (⊖10.58)	電波高度計音			131kt:220ft:332°	
08:43:59 (⊖8.10)	200(F/E)				
08:44:00 (⊖7.24)	Minimum(COP)				
08:44:00 (⊖6.76)	Check(CAP)				
08:44:01 (⊖6.03)	Click(オート・パイロット解除)			130kt:164ft:328°	○高度150~200ftでAuto Pilot disengage(CAP)間もなく意識なくなる(CAP)。

08:44:01 (⊖ 5.76)	Click(パワーレバー・アイドル位置へ)		機長の右手が出て、バットとパワーレバーを引いたのを見ている (F/E)。 Power low とエンジン出力が低かったので叫び、パワーレバーを押した (F/E) 機首が下がったので、力いっぱい操縦輪を引上げようとしたが、上らなかった (COP)。 しぼったまま、手が前へ出たのを覚えている。左手でパワーレバーを前に押した。レスポンスを得た (F/E)。 ある程度まで操縦輪を引き起こすことができたが、それ以上は引けなかった。機長を見ると依然として両手で突っ張るようには操縦輪を押していたのでたまらなくなつて「キャブテン止めて下さい」と叫んだ (COP)。 機首と左翼から接水 (管制官) F/E右側の面が強い顔面挫創、左鎖骨骨折。 右側ベルト痕22、左7、左右19
08:44:01 (⊖ 5.46)	MM受信音 (終了)		
08:44:02 (⊖ 5.27)	We are Low (F/E) 又はPower Low (F/E)		
08:44:02 (⊖ 4.84)	Click(リバース・レバー操作)		
08:44:04 (⊖ 3.06)	Click (?)	130kt から減速し始め、328°から右方向へ変針 126kt:138ft:331°	約3秒前からリバース
08:44:04 (⊖ 2.68)	Glide Slope (GPWS)		
08:44:05 (⊖ 1.96)	Captain (COP)		
08:44:05 (⊖ 1.52)	Glide Sl..... (GPWS) やめて下さい (COP)		
08:44:07 (⊖ 0.00)	Crash	124kt:31.7ft:334.4°	N1は、約51%へ N1は、約31%
08:44:07 (⊕ 0.42)	録音終了		

第3表 機長に係る技能審査等の実施状況

審査実施日	審査種別	審査路線	線名	合否	根拠及び	内容
54. 11. 22	技能(認定)	ローカル(実機)		合	航空法第72条第1項に基づく機長資格取得のための技能審査	
54. 11. 26	路線(認定)	羽田 → 福岡 → 沖縄		合	航空法第72条第1項に基づく機長資格取得のための路線審査	
54. 11. 30	" (")	福岡 → 成田 → 札幌 → 羽田		合	航空法第72条第1項に基づく機長資格取得のための路線拡張審査	
54. 12. 4	" (")	成田 → 大阪		合	同上	
54. 12. 7	" (")	大阪 → 成田		合	同上	
55. 4. 10	技能(定期)	ローカル(実機)		合	航空法第72条第6項に基づく社内定期審査	
55. 6. 21	国際線(認定)移行	成田 → モスクワ		合	航空法第72条第1項に基づく機長資格取得のための路線審査	
55. 10. 23	路線(認定)	モスクワ → ロンドン		合	同上	
55. 10. 24	路線(拡張)	ロンドン → モスクワ		合	同上	
55. 12. 23	技能(定期)	シミュレーター		合	航空法第72条第6項に基づく社内定期審査	
55. 12. 24	" (")	ローカル(実機)		合	同上	
55. 12. 30	路線(定期)	福岡 → 成田		合	同上	
56. 6. 27	技能(定期)	シミュレーター		合	同上	
56. 11. 12	技能路線観察	羽田 → 福岡		合	健康管理上の社内技能・路線観察	
56. 11. 13	" "	福岡 → 羽田 → 沖縄 → 福岡 → 羽田		合	同上	
56. 11. 24	技能(定期)	シミュレーター		合	航空法第72条第6項に基づく社内定期審査	
56. 11. 25	" (")	ローカル(実機)		合	同上	
56. 12. 5	路線(定期)	羽田 → 札幌 → 福岡		合	同上	

(注) : 路線審査 — 規則第163条第2項第1号に掲げる事項に関する知識及び能力の審査。

技能審査 — 規則第163条第2項第2号に掲げる事項に関する知識及び能力の審査で、そのうち「シミュレーター」とは、DC-8-55シミュレーターによって行うものであり、「ローカル」とは、出発空港から出発空港に帰投する飛行に於いて行うものである。

			CAP	
			第1 腰骨折、胸腹部擦過傷	
			S t	
			S t	
			頸椎捻挫、両下肢打撲	
			顔面・頸部・腰部打撲	
状況 の 負 傷 の 死 亡 者 乗 搭 表	1	顔面打撲、上肢皮フ炎	頭部打撲、左足関節脱臼骨折、胸部皮フ炎	
		第12胸椎・第1腰骨折 頸部・上肢皮フ炎		死亡（全身打撲）
	10	第12胸・1腰椎間関節断裂、第1腰骨折		死亡（溺 水）
		頭部・頸部打撲 5～7肋骨々折、上肢皮フ炎	死亡（溺 水）	死亡（全身打撲）
	20	顔面・胸・腰部打撲（1～横突起骨折）		死亡（頭部外傷）
		顔面・腹部打撲（右頬骨折）、下肢皮フ炎		頭部・胸部・下肢打撲、右肩脱臼、胸部皮フ炎
	30	死亡（頭部外傷）		死亡（頭部外傷）
		死亡（全身打撲）	顔面・胸部打撲、左大腿骨折	第4 腰椎圧迫骨折
	40	死亡（頭部外傷）		顔面・腰部打撲、右肋骨・左大腿骨折
		前額・上下肢打撲	死亡（溺 水）	死亡（頭部外傷）
(1) 機 内 左 側	1	右眼瞼打撲		前頭部打撲
		頭部・頸部・腰部・右上肢打撲		顔面・腰部・下肢打撲
	20	頭部打撲、頸部捻挫		胸部・下肢打撲
		顔面・上肢打撲		右耳打撲
	30	後頭部・頸部・上肢打撲		顔面・腰部打撲
		前額・頸部打撲、右第4 肋骨々折	頭部打撲	頭部・頸部・下肢打撲
	40	顔面・胸部・腰部打撲	顔面・頸部打撲	顔面・胸部・下肢打撲
		頸部捻挫、右第4 肋骨々折		前頭部打撲、左足関節脱臼骨折
	50	後頭部・頸部・胸部・右肘打撲	頭部・腰部打撲	
		前額部挫傷		
(1) 機 内 右 側	1	下肢打撲		顔面打撲、第5 腰椎圧迫骨折
		顔面・頸部・腰部打撲	第5 腰椎右横突起骨折	胸部打撲、第5 腰椎圧迫骨折
	20	顔面・胸部打撲	両肩甲骨痛のみ	顔面打撲
		腰部打撲	腰部打撲	腰部打撲
	30	腰部・背部痛のみ	頭部・腰部・両下肢打撲	顔面・頸部・腰部打撲
		肋骨・肋骨・第5 腰椎骨折		頭部・下肢打撲、第5 腰椎骨折
	40	顔面打撲、左大腿骨々折、肋骨々折	頭部打撲、第4・5腰椎棘間関節断裂	第1 2 腰椎圧迫骨折
		頭部・頸部・腰部・下肢打撲、右肋骨々折	後頭部・頸部打撲	第7 肋骨々折、左下肢打撲
	50	顔面打撲	腰部捻挫	後頭部・頸部・腰部打撲
		第1 腰椎脱臼・骨折		前頭部・胸部・下肢打撲
(1) 機 内 後 側	1	胸部・腰部打撲	胸部・腰部打撲	脳振盪
		頸部・腰部打撲	頸部捻挫	異常なし
	20	顔面・腰部・右下肢打撲		S t
		胸部打撲、第2 腰椎骨折		顔面挫創擦過傷、腰部捻挫、頭部打撲
	30	腰部打撲		
		顔面・頸部・腰部打撲		
	40	頭部・頸部打撲（硬膜下血腫）		
		顔面・両下肢打撲		
	50	胸部・腰部打撲（第10肋骨々折）	腰部打撲	
		後頭部・右肩打撲、第5 腰椎骨折		
			A	
			S t B	
			右第7肋骨骨折	
			C	

凡例  内は、客席床部の脱落部分を示す。

COP

第1腰椎折、左第10肋骨々折、顔面擦過傷
顔面打撲、左鎖骨・両上腕骨々折

FE

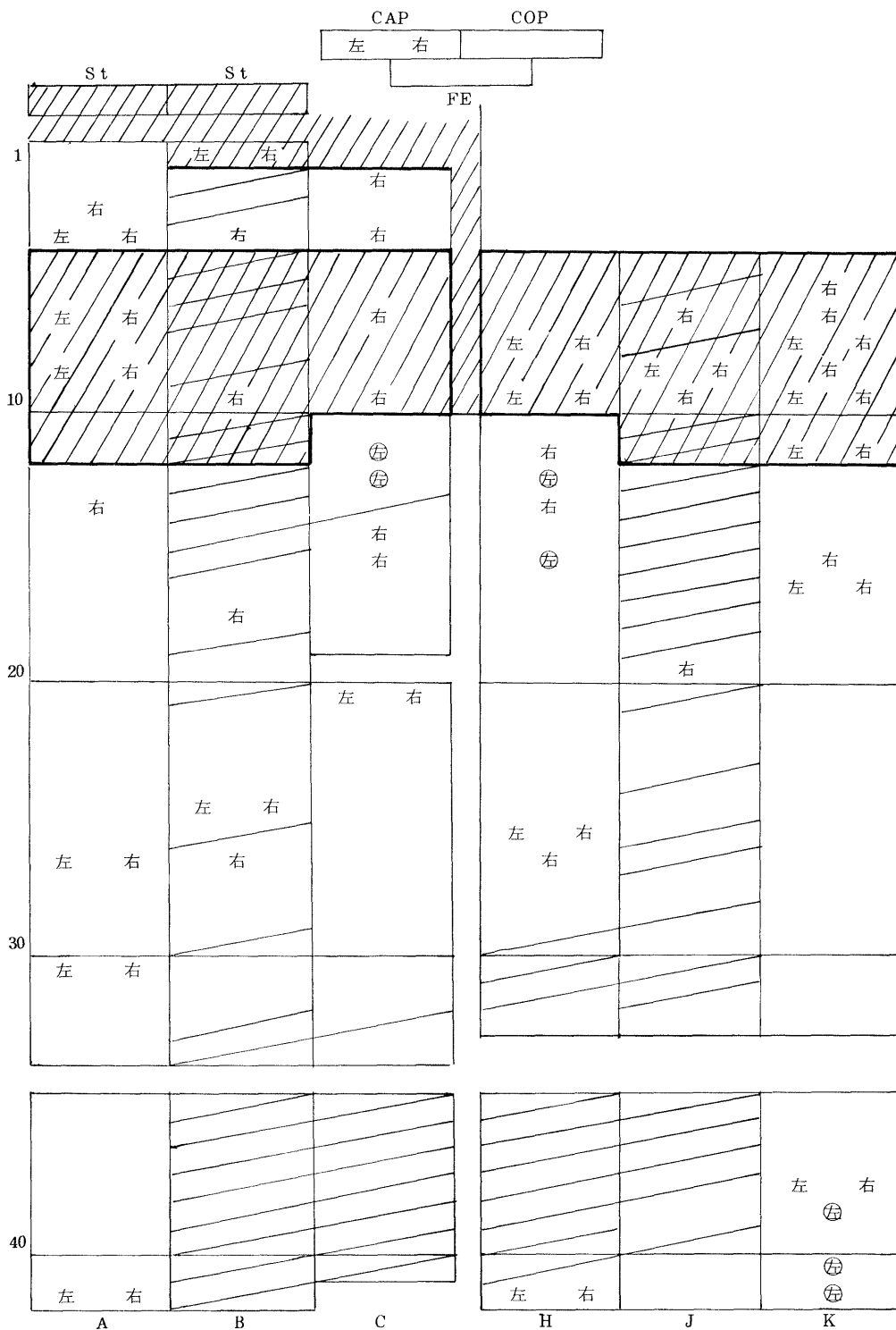
5	死亡（頭部外傷） 頭頂部骨折、第1・2腰椎折、上肢皮フ炎 第1腰椎折（横突起）、左大腿骨々折 死亡（頭部外傷） 死亡（頭部外傷） 死亡（溺水）	顔面打撲、左脛骨々折、腹部皮フ炎 死亡（頸部損傷） 死亡（頭部外傷） 死亡（頭部外傷）	死亡（頭部外傷） 死亡（頭部外傷） 死亡（溺水） 頭部切傷、右手関節脱臼骨折 死亡（全身打撲） 胸骨・左鎖骨・左肩甲骨骨折
10	死亡（頭部外傷） 顔面打撲、2・5肋骨、左腓骨々折 前額・胸部・下肢打撲（肋骨々折） 右眼瞼・腰部・下肢打撲 顔面・頸部・腰部打撲 左側腹打撲、頸部捻挫 顔面・頸部・腰部打撲 頸部捻挫、右肋骨々折 頭部・頸部・腰部打撲 顔面・肩・腰部打撲		死亡（頭部外傷） 第4腰椎圧迫骨折
20	顔面・頸部・腰部打撲 頭部・頸部・腰部打撲 頸部・腰部打撲 顔面打撲、第5腰椎圧迫骨折 顔面打撲（鼻骨々折） 頭部打撲、第5腰椎骨折、右第5中手骨々折 頭部・腰部・頸部打撲 前額・頸部・腰部打撲 頸部・胸部・腰部打撲	頭部・頸部・胸部・腰部打撲 顔面打撲、第5腰椎圧迫骨折	前額打撲、左足外踝骨折 顔面・腰部下肢打撲 顔面打撲、頸部捻挫 顔面打撲、頸部捻挫 前額・胸部打撲 頭部・右手打撲 顔面・腰部打撲 右下肢打撲
30	顔面・頸部・腰部打撲 頭部・頸部・腰部打撲 頸部・腰部打撲 顔面打撲、第5腰椎圧迫骨折 顔面打撲（鼻骨々折） 頭部打撲、第5腰椎骨折、右第5中手骨々折 頭部・腰部・頸部打撲 前額・頸部・腰部打撲 頸部・胸部・腰部打撲	頸部・腰部・左膝打撲 前額・腰部・下肢打撲 頭部・頸部・腰部打撲 胸部・下肢打撲、第1腰椎骨折 顔面・腰部打撲	第3腰椎圧迫骨折 顔面・頸部・腰部・下肢打撲 前頭部・胸部・腰部・下肢打撲 胸部打撲、第5腰椎圧迫骨折 顔面・頸部腰部打撲 顔面打撲、頸部捻挫 前額・腰部・右手打撲 腰部捻挫 顔面・頸部打撲 背部打撲、右手関節捻挫
	頭部・腹部打撲	頭部・腰部打撲	胸部打撲、第5腰椎圧迫骨折 頸部捻挫、第2腰椎圧迫骨折 胸部打撲

(2) 機 内 右 側

40	胸部・腰部・下肢打撲	腰部捻挫 後頭部打撲、頸部捻挫 顔面打撲、第3腰椎骨折	第4腰椎横突起骨折 頭部・頸部・腰部打撲 前額・頸部・腰部・下肢打撲 頸部・腰部打撲 顔面打撲、左肋骨々折 頸部・胸部・腰部打撲 頸部・骨盤、右下肢打撲 頭部打撲、頸部捻挫
	H	J	K

凡例  内は、客席床部の脱落部分を示す。

第6表 搭乗者に見られるシートの状況



ベルト痕 : 49名確認 < 右 > 左、 22名
 左 > 右、 7名
 左 × 右、 20名

凡例  内は、客席床部が脱落部分を示す。

55. 12. 23	スルモンチール	トリブタノール	コントール	エナデール	HND-FUK DH2 Simulator(SIM) FUK-FUK FUK-HND DH2	定期性能審査
24						
29						
30					HND-FUK DH1 FUK-NRT CA	定期路線審査
56. 1. 6	B医大病院 母					
27	B医大病院 母					
2. 2	健康管理室					
9						
10	B医大病院 母					
11						
12	健康管理室					
24	B医大病院 母					
26	健康管理室					
3. 5						
7						
9						
14						
15						

56. 3. 16				SPK-NRT CO 医師同乗観察 NRT-SPK OB SPK-HND OB
19				
20				
27				
28				
4. 1				欧州路線客から国内・南回り欧州路線室へ配属結。 HND-SPK CO SPK-FUK CO FUK-OSA CO OSA-FUK CO FUK-OKA CO OKA-HND DH1
3				
4				
5				
8	C医大病院 ㊦ うつ状態	ド グ マ チ ー ル		
16		150mg		HND-OKA CO OKA-FUK CO FUK-SPK CO SPK-NRT CO NRT-SPK CO SPK-HND CO
17				
18				
21				
28				HND-SPK CO SPK-FUK CO FUK-OSA CO
29				
5. 2				

脚座式のパーティ中、一人で廊下を抜け出し、立止って一点を見つめていた。
(義兄・医師)

㊦心身症、抑うつ状態。機長としての乗務復帰困難。

56.	5.	7	健康管理室（航空身体検査証明のための診察）	ド グ マ チ ル	ト リ ブ タ ノ ー ル	セ ル シ ン	このところ駅まで迎えに行った帰途、車中で誰のいうことをきいているんだと いって、突然顔をなぐられた。（夫人） 着陸態勢に入ったとき、クッククック と突った。 乗務をキャンセルした。（機長）	HND-OKA CO OKA-FUK CO FUK-HND DH1
10	11	16	C医大病院 ⑤	600mg	75 mg	6mg	眠いけれど具合はよい。	
18	27	30	C医大病院 ⑤（心理テスト）	150mg	30 mg	6mg		
6. 10	11	12	C医大病院 ⑤	150mg	30 mg			
18	22	24	C医大病院 ⑤	150mg	30 mg			SIM SIM SIM SIM 定時技能審査
26	27	28					コーバイロットとしては消極的で、ク ルー間の調和が不足している。疲労に よる注意力の散漫さがみられた。（チ ェッカー） 上司、友人等から旅行に行きたくよう 勧められ、一時はその気になるが、や はり止めようという。（夫人）	HND-OSA DH1 OSA-FUK CO FUK-OKA CO OKA-FUK CO FUK-OSA DH1 OSA-OKA CO
7. 2		3						

56. 10. 25	トリ ブ タ ノ ー ル			FUK-NRT CO NRT-FUK CO FUK-HND DH1
26	ド グ マ チ ー ル			HND-SPK CO SPK-HND CO HND-SPK CO
11. 5				SPK-NRT CO NRT-SPK CO SPK-HND DH1
6				
7				
10	健康管理室		④ 自律神経失調症、抑うつ状態、機長として乗務支障なし。国内線限定は段階的緩和予定。経過観察の治療は継続。	
11	C医大病院 ④	150mg		HND-FUK CO FUK-HND CO HND-OKA CO OKA-FUK CO FUK-HND DH1
12				通航乗務員査定委でキャプテン復帰の報告
13				
17				
19	健康管理室（航空身体検査証明のための診察）			HND-FUK CA FUK-HND CA HND-FUK DH2 SIM FUK-FUK FUK-HND DH2 HND-FUK CA FUK-HND CA HND-OKA CA OKA-FUK CA FUK-HND DH1
20				
21				
24				
25				）定期技能審査
28				
29				

56. 12. 1				HND-OSA DH1 OSA-OKA CA
2				OKA-OSA CA OSA-HND DH1
5				HND-SPK CA } 定期健診検査 SPK-FUK CA FUK-HND DH1
6				HND-SPK DH1 SPK-HND CA HND-OKA CA
7				OKA-OSA CA OSA-HND DH1
9	C医大病院 (甲)			HND-FUK DH1 FUK-NRT CA NRT-FUK CA FUK-NRT CA NRT-FUK CA FUK-HND DH1 HND-OSA DH1 OSA-FUK CA FUK-OSA CA OSA-HND DH1
10				
12				
13				
14				
17				
18				
20				HND-FUK CA FUK-SPK DH1
21				SPK-HND CA HND-SPK CA SPK-HND CA
22				

以前よりもよかったが、ふさぎこんでいるようだ。(父)

妻に対し裏切り者といった。(妻)

娘に対し、理由なく、とうとうパパのいうことを聞かなくなったね、といった。(妻)

ドグマチール

150mg

56, 12. 24	ド グ マ チ ー ル				HND-SPK CA SPK-OSA CA OSA-HND CA HND-FUK DH1 FUK-OSA CA OSA-FUK CA FUK-OSA CA OSA-FUK CA FUK-HND DH1
26					
27					
28					
31					
57. 1. 2				妻は実家、両親と一緒にいた。 話をしても十分な応答がない。(同様)	HND-FUK DH1 FUK-OSA CA OSA-FUK CA FUK-OSA CA OSA-FUK CA FUK-HND DH1
3					
4					
5					
11					HND-OKA CA
12					OKA-HND CA
13				旅行の誘いに行ったが、30分後には 忘れている。本当に治ったのかと思っ た。(同様)	HND-SPK CA SPK-OSA CA OSA-OKA CA OKA-HND DH1 HND-FUK CA FUK-HND CA HND-SPK CA SPK-HND CA HND-OKA DH1
16					
17					
19					
24					

57. 1. 25				OKA-OSA CA OSA-SPK CA
26				SPK-NRT CA NRT-SPK CA SPK-HND CA
29			いらいらして、ゆとりのない人だと思 った。(同僚)	HND-FUK CA FUK-SPK CA SPK-FUK CA
30			ホテルでクルー全員で食事中、皆が笑 っても、ひとり笑わず、人の顔を凝視 していた。(同僚)	FUK-HND CA HND-OKA CA
31				OKA-HND CA
2. 3				NRT-FUK CA FUK-HND CA
8			吐き気	HND-FUK CA (深へパンク)
9			吐き気。イネイネの声でした。	FUK-HND CA (事故)

(注) 精神神経用剤の適応症状及び用法(薬物療法の実際・第2編 改定薬のまとめ 1981年版等による。)等は、下表のとおりである。

(薬名) スルモンチール	(薬名) トリブタノール	(薬名) コントール	(薬名) エナデール	(薬名) ドグマチール	(薬名) セルシン
三環系抗うつ剤で、精神神経科領域におけるうつ病又はうつ状態に適応するものである。	三環系抗うつ剤で、精神神経科領域におけるうつ病又はうつ状態に適応するものである。	弱い精神安定剤で、不安、緊張、抑うつを除去するものである。 1日量は20～60ミリグラムで連用中における投与量の急激な減少ないし投与の中止により、まれに癲れん発作、ときにせん妄、振せん、不眠、不安、幻覚妄想等の禁断症状があらわれることがある。	ベンゾジアゼピン系向精神薬で、神経症、心身症、自律神経失調症における不安、緊張、焦燥、抑うつ、易疲労性などの情緒障害、自律神経症状及び睡眠障害等に適応するものである。 1日量は、3～12ミリグラム、眠気、ふらつき等の副作用がある。	スルピリド向精神薬で、精神分裂病、うつ病又はうつ状態に適応するものである。 精神分裂病に対しては、1日量300～600ミリグラム、うつ病等に対しては1日量150～300ミリグラム処方される。	弱い精神安定剤で、静穏、鎮静作用、自律神経安定化作用及び筋弛緩、抗痙攣作用を有する。 1日量は15ミリグラムで、副作用としてはコントロールと同様の症状があらわれることがある。
初回1日量50～100ミリグラム、以後漸増して1日量200ミリグラムまで処方される。	初回1日量30～75ミリグラム、以後漸増して1日量150ミリグラムまで処方される。	精神分裂病等の精神障害者に投与すると逆に刺激興奮、錯乱等の症状があらわれることがある。			自動車運転等に從事さないよう注意することになっている。
自動車運転等は禁じられる。	自動車運転等は禁じられる。	自動車運転等に從事さないよう注意することになっている。		自動車の運転等は禁じられる。	自動車運転等に從事さないよう注意することになっている。

第8表 日本航空の医療関係部署

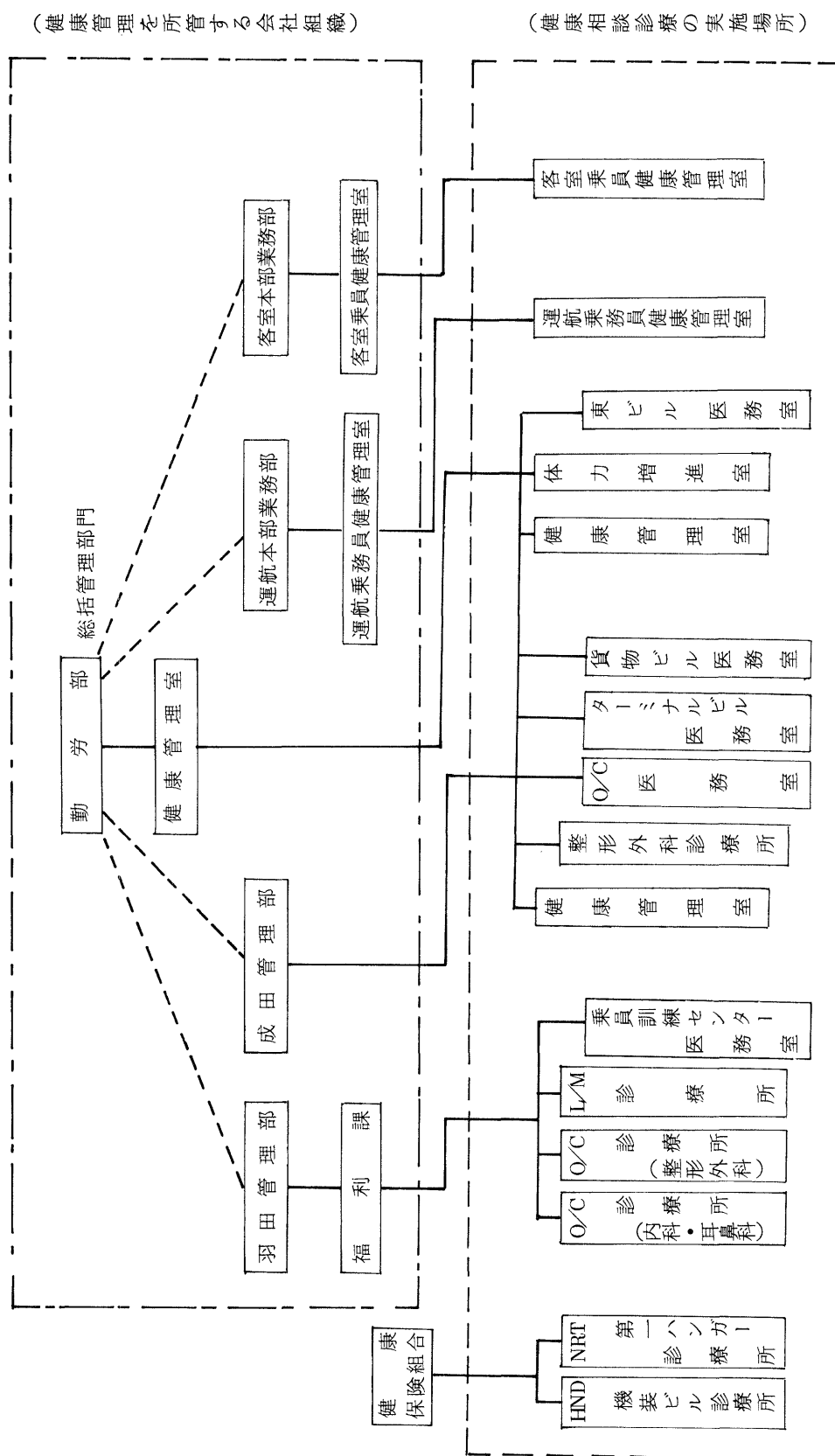
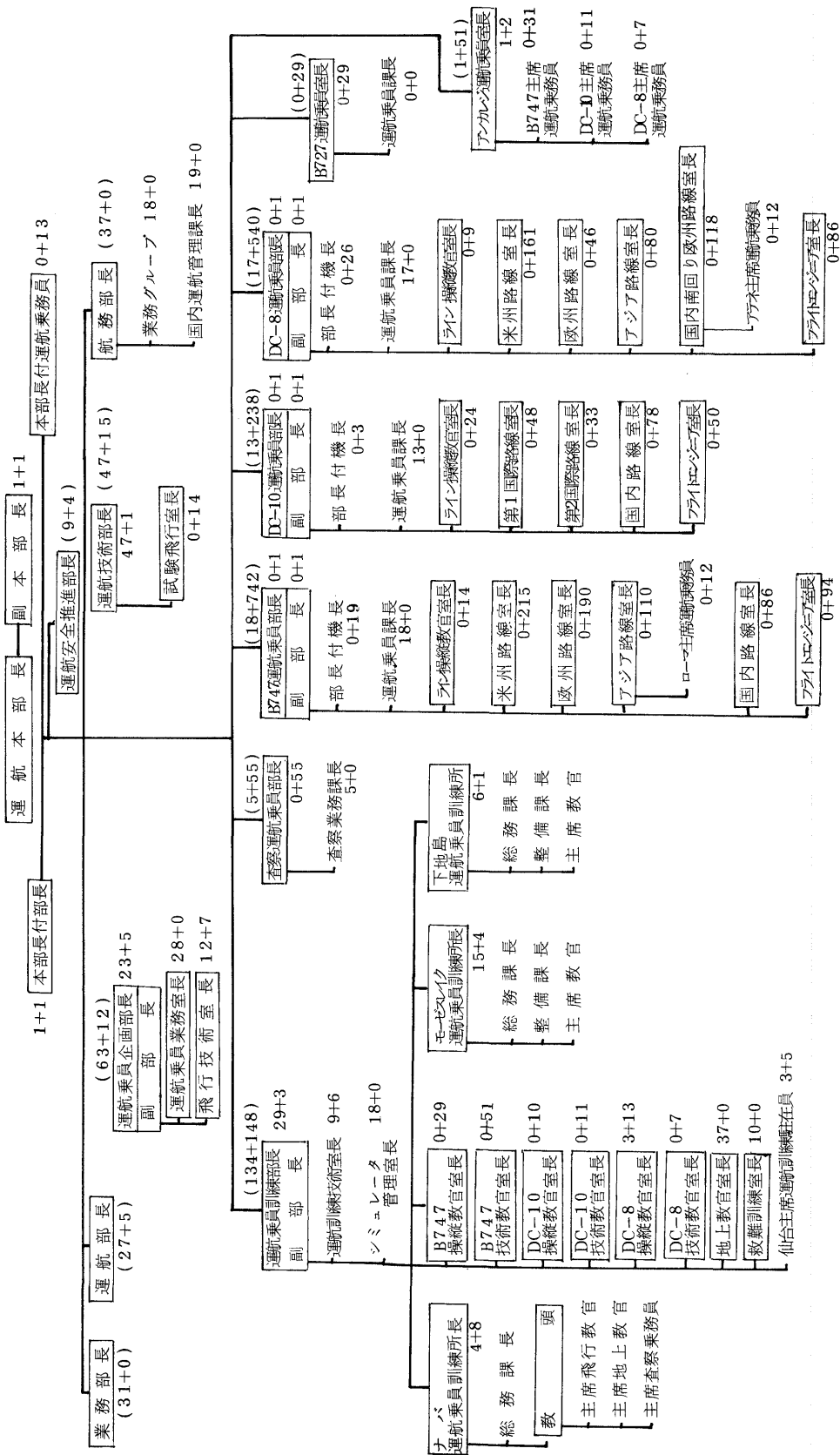


表 9



第10表 救助活動（初動段階）の経過

時 間	陸	上	現 場
08 : 44	事故発生 航空管制官及びスポット56にいた空港グランド・サービスの職員が目撃。 管制官から東京空港事務所消防課へ通報。	空港グランド・サービス職員3名、ライトバタン2台で33R進入端岸壁に到着。 東京空港事務所消防課から東京消防庁管制室へ通報。	
08 : 46		東京空港事務所消防課職員、同航務課職員、空港署パトロールカー、日本航空整備担当職員等が、33R進入端岸壁に到着。	
08 : 48		日本航空事故本部設置。警視庁総合警備本部設置。東京消防庁第3出動発令。第3管区海上保安本部事故対策本部設置。	
08 : 56		釣舟1隻（O号）33R進入端岸壁に接岸、警官3名乗船して現場へ向かう。	
08 : 59		消防庁特別救難隊及び日本航空ボート組立開始。	
09 : 00		大森医師会へ消防庁から事故通報。	釣舟（O号）左主翼着、海中の乗客の救助を始める。

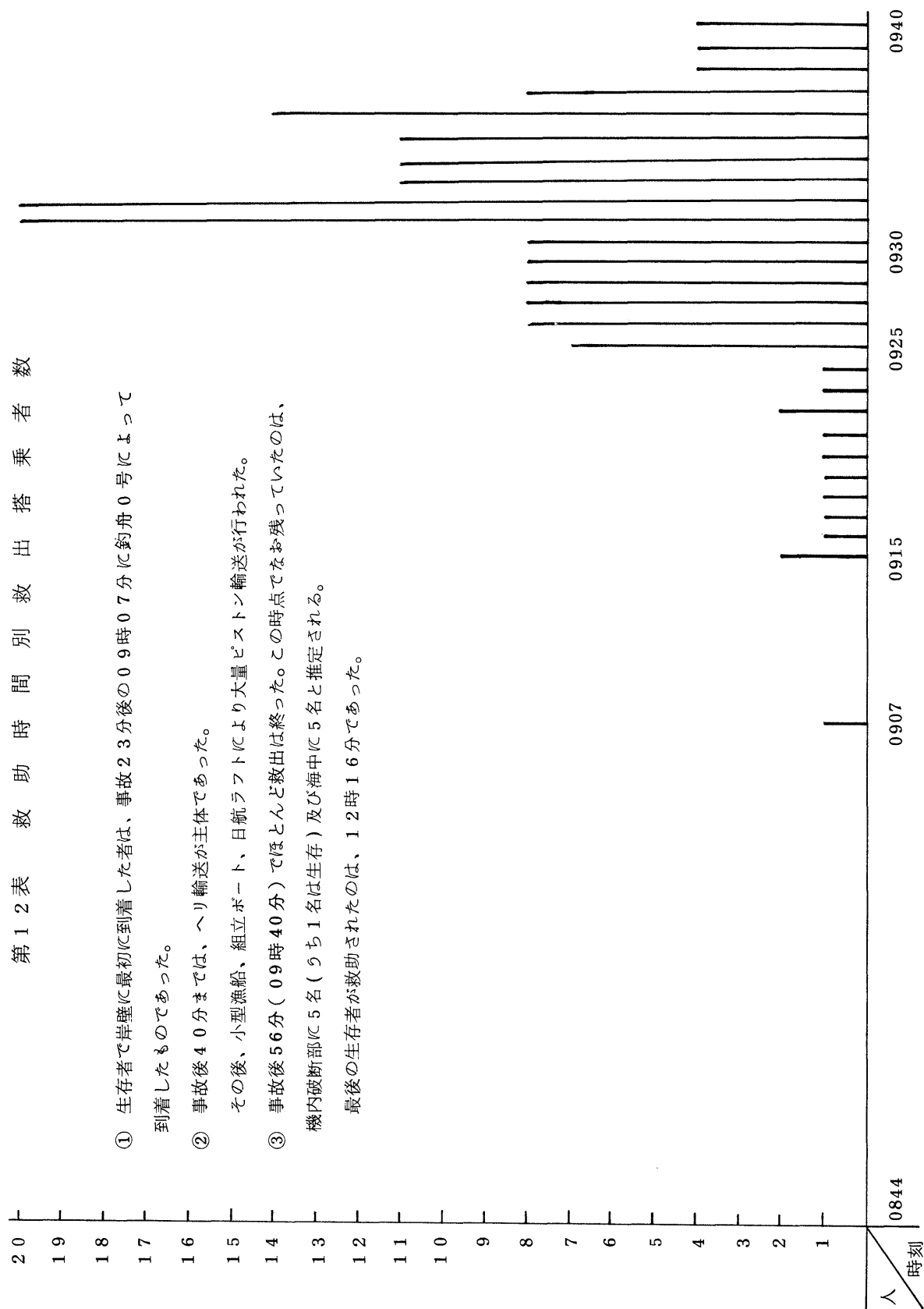
時 間	陸 上	現 場
09 : 04	日本航空バス4台を33R進入端岸壁へ差し向ける。	ヘリコプタJ A 9 0 6 5 (警) 指令機到着。
09 : 05		ヘリコプタJ A 9 0 2 7 (消) 指令機到着。
09 : 07	釣舟 (O 号) 33R進入端岸壁に接岸して乗客1名 (5 A) を揚陸。	
09 : 10		ヘリコプタJ A 9 5 6 5 (保) 及びJ A 9 1 2 1 (消) 到着。
09 : 12		消防庁特別救難隊到着。釣舟 (O 号) 乗客2名を乗せて陸岸へ向かう。
09 : 13		左右両主翼上にヘリコプタから救助隊員降下。
09 : 14	ヘリコプタによる救助始まる。	水上署隊到着。海保ヘリよりラフト4個投下。
09 : 15	消防庁から蒲田医師会へ自宅待機の要請があった。	
09 : 17		漁船、警察ボート、消防庁ボート等数隻到着。F / E 及び前部客室乗務員2名漁船に。
09 : 20	消防庁から蒲田医師会へ出動要請。	
09 : 21		海保川崎の巡視艇到着。
09 : 23		日本航空のラフト3隻到着。機長、警察ボートへ、次いで同マラフトへ。
09 : 25	日赤医療センターから救護班 (第1次) 出発。	
09 : 30	消防庁から大森医師会へ出動要請。	
09 : 35	蒲田医師会特別災害医療班 (医師18名ほか) 33R進入端岸壁に到着。	副操縦士及び後部客室乗務員3名が漁船及び救助ボートに。
09 : 38	ヘリコプタによる救助終る。	
09 : 40	大森医師会第1陣、33R進入端岸壁に到着。	

第111表 救助に参加した機関及び組織

機 関	出 動 人 員	使 用 機 材					備 考
		舟 艇	ヘリコプタ	車 両	ラフト	そ の 他	
東京消防庁 ○第三出動発令 (本部長 第二方面隊長)	28消防署	艇 8	4	105		担架、毛布、油圧式救助具、エアソー、鉄線ばさみ、ずばり工具一式	艇：消防艇 組立：組立式救命ボート
	職 員 625 団 員 40 計 665	組立 20					
川崎市消防局		指揮艇 1 消防艇 2		査察車 1			約500mまで接近 海上浮遊物の監視及び情報収集
横浜市消防局		消防艇 1		1			〃
千葉市消防局		消防艇 1					〃
警 視 庁 ○総合警備本部 (警備部長)	機 動 隊	水上艇 23	6	パトカー100		無 線 500	参加隊員の相当数は、周辺警備及び交通整理に当たった。 事故機周辺は、約500名
	レスキュー	組立 46	うち直 (接救助) は3機	白バイ 40 その他 40		エアソー、チャール、水中ライト	
	アクアラング					弁慶、消火器、工具一式	
	署						
	本 部						
	計 2,329						
海上保安庁 ○羽田沖航空機事故対策本部 (第三管区海上保安本部長)	船艇乗員	船 8	2		4	無線機、エアソー、減圧式固定拍架、エンジンカッター、潜水救助信器材一式、ガス検知器、ライト、救命胴衣	船：巡視船、測量船 艇：巡視艇、監視取締艇、搭載船、灯台見回船
	特殊救難隊	艇 35					
	陸上職員 (含ヘリ)	125					
	計 541						
防 衛 庁	水中処分隊員	10	10				舟艇及びヘリは現場待機 水中処分隊は終日参加
大田漁業協同組合		27					
羽田漁船共同組合		6					
大森漁業組合		6					

組 織	出 動 人 員	使 用 機 材				備 考
		舟 艇	ヘリコプター	車 両	ラフト	そ の 他
羽田雄漁業共同組合	5	4				
大森東雄漁業共同組合	2	2				
大田区公害環境部	3	2				
東京湾遊漁船協同組合		18				
川崎釣船漁業組合	4	3				
日本赤十字	医 師 看護婦 その他	8 13 52		18		船型が大型のため、現場に接近する ことができなかった。 本社（救護班×1、災害救援車×3）、 大森病院（救急車×1、災害派遣車× 3）、武蔵野・新宿・葛飾病・産院（ 救急車各1）、横浜病院（救護班×1、 救急車×1、災害派遣車×2）その他
蒲田医師会	医 師 看護婦 その他	18 2 1				
大森医師会	医 師	17				
牧田総合病院	看護婦 医 師 看護婦 その他	1 3 8 7				
日 航		35				
関 連		99				
全 日 空		170				
東亜国内		38				
東亜エアーサービス		20				
三愛石油		23				
		11				

第12表 救助時間別救出搭乗者数



① 生存者で岸壁に最初に到着した者は、事故23分後の09時07分に釣舟0号によって到着したものであった。

② 事故後40分までは、ヘリ輸送が主体であった。

その後、小型漁船、組立ボート、日航ラフトにより大量ピストン輸送が行われた。

③ 事故後56分(09時40分)でほとんど救出は終った。この時点でなお残っていたのは、機内破断部に5名(うち1名は生存)及び海中に5名と推定される。

最後の生存者が救助されたのは、12時16分であった。

第13表 救 出 搭 乗 者 収 容 先 リ ス ト

	病 院 名	収 容 数 (名)
1	高 野 病 院	1 4
2	慈 恵 医 大	1 2
3	東 邦 医 大	1 1
4	蒲 田 総 合	7
5	済 生 会 中 央	6
6	都 立 桂 原	5
7	昭 和 医 大	5
8	大 森 記 念	5
9	京 浜	4
10	黒 田	4
11	慶 応	3
12	日 赤 医 療 セ ン タ ー	3
13	日 本 医 大 病 院	3
14	東 京 労 災	3
15	市 川 第 一	3
16	東 京 国 立 第 二	3

(注) 病院 (即日退院を含む) 収容 1 2 0 名
死 者 2 4 名
そ の 他 3 0 名

	病 院 名	収 容 数 (名)
17	広 尾 病 院	3
18	北 品 川 総 合	3
19	田 園 調 布 中 央	2
20	六 郷	2
21	大 村	2
22	東 大	2
23	国 分	2
24	大 槻	2
25	大 森 日 赤	2
26	東 京 女 子 医 大	2
27	東 京 救 済 会	3
28	日 大 駿 河 台	1
29	墨 東	1
30	警 察	1
31	大 田	1
	計	1 2 0 名

別添 1 航空身体検査証明申請書の書式
第22号様式（日本工業規格 B 4）

航空身体検査証明申請書									
運輸大臣殿									
(指定航空身体検査医)									
住所 東京都大田区東京国際空港内 日本航空オペレーションセンター									
(電話番号) 747-3471									
氏名									
生年月日									
年 月 日 (才) 男・女									
水籍 (不在の場合は「無籍」)									
印									
収入紙									
第 種 航空身体検査証明を受けたので、航空法施行規則第61条の規定により申請します。									
1 航空従事者の資格 (技能証明番号を記入すること。)									
第 1 種 第 2 種 第 3 種									
技能証明の種類 番号 技能証明の種類 番号 技能証明の種類 番号									
定期運送用操縦士 一等航空士 自家用操縦士									
上級事業用操縦士 二等航空士 二等航空士									
事業用操縦士 二等航空通信士 三等航空通信士									
2 初回検査又は更新検査の別 (いずれか〇印でかこむこと。) 初回検査 更新検査									
3 更新検査の場合は前回検査年月日									
年 月 日									
4 現に有している身体検査証明の有効期限									
年 月 日									
5 既往歴等 (過去にかかったこと又は現在にかかっているときは、有の欄に〇印をする。)									
有 病名等 有 病名等 有 病名等									
眼の病気 めまい 骨折又は習慣性脱臼 胆のう炎、胆石									
耳鼻の病気 のりもの酔い 下肢のけいれん 薬剤血精過敏症									
副鼻腔炎 神経炎 結核 瘧疾 黄 疸									
歯、歯ぐきの重い病気 麻痺 喘 息 虫 垂 炎									
日本風症 不眠症 気胸又は胸部疼痛 痔又は脱肛									
ジフテリア 神経症 肋膜炎 肺炎 糖尿病、蛋白尿									
ロイマチス 破傷風 炭 疽 性病									
腎臓前炎 甲 状 腺 腫 高血圧又は低血圧									
6 該当するものがあれば詳細に記入すること。									
項 目 時期、期間、原因、病名、品名、術式等の説明									
常用薬品									
手術歴									
頭部外傷									
失神、意識喪失									

7 身長	cm	10 視力	右	左	13 血圧	縮 放
8 体重	kg	11 裸眼視力	右	左	14 起立耐性試験	縮 放
9 胸囲	cm	12 裸眼視力の運動負荷試験	右	左	15 遠視矯正点	mm
15 遠視矯正点	mm	18 近視矯正点	右	左	24 深視力	右
16 遠視矯正点	mm	19 夜間視力	右	左	25 視野	左
17 近視矯正点	mm	20 色覚	右	左	26 眼圧	右
18 遠視矯正点	mm	21 眼位	右	左	27 眼の疾患	左
28 純音聴力 (イーロフナーターによる。)	dB	112 1,000	2,000	3,000	30 聴覚検査	
29 純音聴力	dB	112 1,000	2,000	3,000	31 耳疾咽喉の疾患	
33 一般	dB	112 1,000	2,000	3,000	32 口腔、歯牙	
34 呼吸器系	dB	112 1,000	2,000	3,000	33 精神神経系	
35 循環器系	dB	112 1,000	2,000	3,000	39 運動器系	
36 消化器系	dB	112 1,000	2,000	3,000	40 泌尿生殖器系	
37 血液及び造血臓器	dB	112 1,000	2,000	3,000	41 その他	
42 尿検査	蛋白 糖	44 血清学的検査			46 血液検査	
43 胸部X線検査		45 心電図検査			47 その他の検査	
48 検査医師見解		49 検査年月日	昭和	年	月	日
		50 航空身体検査指定機関の名称及び代表者氏名				
		51 合格の別				
		52 不合格のとき				
		53 交付した証明書の番号				
		54 交付年月日	昭和	年	月	日
		55 証明に附した条件				
		56 備考				
		57 運輸大臣又は指定航空身体検査医の氏名				
		自 年 月 日				
		至 年 月 日				
		(交付した証明書の有効期間)				